

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション援助技術論		理学療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	竹中 誠(実務経験あり)
授業の概要				
医療現場で学生として求められるコミュニケーション・スキルについて学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
専門職としてふさわしい態度をとることができるようになる。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	自己紹介、他己紹介		
2	接遇5原則	身だしなみ、挨拶、表情、話し方、態度		
3	医療接遇	問診と医療面接		
4	マナーについて	マナー、エチケット、モラル、ルール		
5	電話対応	電話対応、エレベーター、物の受け渡しマナー		
6	手紙の書き方	手紙の書き方、インターネットトラブル		
7	ハウレンソウ	報告・連絡・相談・名刺の受け渡し		
8	お礼状について	お礼状フィードバック・コミュニケーションGW		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ医学		理学療法科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	布村 忠弘
授業の概要				
スポーツで起こる様々な医学的問題や疾病を学習する。				
【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ医学の基礎的な知識を理解し、種々の分野の医学書を読むことができるようになる。				
回	テーマ	内容		
1	スポーツ医学の役割	スポーツ医学が取り扱う範囲を学習する。		
2	呼吸器	スポーツ選手に起こる呼吸器疾患を学習する。		
3	循環器	スポーツ選手に起こる循環器疾患を学習する。		
4	消化器	スポーツ選手に起こる消化器疾患を学習する。		
5	泌尿器	スポーツ選手に起こる泌尿器疾患を学習する。		
6	眼科	スポーツ選手に起こる眼科疾患を学習する。		
7	歯科	スポーツ選手に起こる歯科疾患を学習する。		
8	耳鼻咽喉科	スポーツ選手に起こる耳鼻咽喉科疾患を学習する。		
9	婦人科	スポーツ選手に起こる婦人科疾患を学習する。		
10	小児科	若年スポーツ選手に起こる小児科疾患を学習する。		
11	皮膚科	スポーツ選手に起こる皮膚科疾患を学習する。		
12	免疫と感染症	スポーツ選手に起こる免疫不全疾患・感染症を学習する。		
13	脳神経科	スポーツ選手に起こる脳神経科疾患・脳損傷・脊髄損傷を学習する。		
14	救急医学	スポーツ現場で必要な救急医学の知識を学習する。		
15	栄養学	スポーツ栄養学の基礎を学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション概論		理学療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	木下(実務経験あり)
授業の概要				
自己学習とグループワークを中心としたアクティブラーニングを通して、医療職に必要な心構え・学習態度を身につけるとともに、リハビリテーションについての基礎的な知識や考え方を学ぶ授業となる。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
知識：リハビリテーションの概念、定義を理解する リハビリテーションに必要な専門基礎学問を理解する 技術：自己学習やグループワークを通して医療職としての学び方を習得する 態度：専門職として必要な基本的態度、習慣について自らの行動規範を持ち、行動できる				
回	テーマ	内容		
1	リハビリテーションとは何か①	リハビリテーションの歴史, 定義		
2	リハビリテーションとは何か②	事例を通して考えるリハビリテーション		
3	リハビリテーションの理念	障害者の復権, ノーマライゼーション, 自立生活運動		
4	リハビリテーションの目標	ADLとQOL, 健康		
5	障害受容	ヒトが病気や障がいを持ったとき		
6	リハビリテーション専門職の役割①	理学療法士・作業療法士		
7	リハビリテーション専門職の役割②	他職種の役割		
8	チーム医療	チーム医療をめぐる動向 他職種連携の基本・原則・課題		
9	障害の階層とアプローチ①	ICIDH		
10	障害の階層とアプローチ②	ICF		
11	ライフステージにおける障害特性	ライフサイクル, 乳児・児童・青年・成人・老年期		
12	リハビリテーション関連法規	医療法, 福祉六法, 障害者総合支援法など		
13	回復段階によるリハビリテーション①	急性期・回復期		
14	回復段階によるリハビリテーション②	生活期		
15	リハビリテーション再考	まとめと復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験 課題・レポート	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医学英語		理学療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	梶 直美・西潟 央
授業の概要				
実習・臨床場面における記載内容等の理解を助けていくために、英語その他について学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 医療現場・リハビリテーション分野で使われている英語・略語について、その正式名称・内容を説明できる。 2. 身体所見や検査所見の英語・略語について、その正式名称・内容を説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション リハビリ・健康の定義	リハビリテーションの語源、歴史、ハビリテーション療育などについての英語表記		
2	理学療法場面の英会話	理学療法場面で必要になる英会話		
3	英文を読む	英文の理解		
4	筆記体を練習してみよう	筆記体の読み書きができるようになる		
5	カルテ記載項目の英語表記・略語①	略語で書かれる医学英語を知る		
6	理学療法場面の英会話	入院場面の英会話		
7	主観的評価	主観的評価について		
8	主観的評価	主観的評価について		
9	グループ発表	グループ発表①		
10	グループ発表	グループ発表②		
11	グループ発表	グループ発表③		
12	カルテの読み方	客観的評価、記録の訳		
13	カルテの読み方	客観的評価		
14	復習	部位、医学英語、慣用句		
15	まとめ	試験対策		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
特に指定なし。		期末試験 確認テスト	50.0% 50.0%	・医学英語は、カルテを読んだり、チーム医療のコミュニケーションツールとして重要です。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学Ⅰ（総論・上肢・下肢・体幹）		理学療法科/1年	2022/後期	講義 （一部、同時双方型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	小島利彦（実務経験有）

授業の概要

身体運動を理解するための基礎知識を学ぶ。
【実務経験】 病院勤務

授業終了時の到達目標

- ・四肢と体幹の運動を理解するための基礎知識を学ぶ。
- ・運動分析、動作分析を理解できる。
- ・生活力学が理解できる。

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、総論	
2	上肢帯と肩関節での上肢の運動①	関節と靭帯
3	上肢帯と肩関節での上肢の運動②	上肢帯と肩関節での上肢の動き
4	上肢帯と肩関節での上肢の運動③	上肢帯の筋、肩関節の筋
5	肘関節と前腕の運動①	関節と靭帯
6	肘関節と前腕の運動②	肘関節における前腕の動き、肘関節の筋
7	上肢帯と上肢の運動	
8	手関節と手の運動①	皮膚、骨、関節と靭帯
9	手関節と手の運動②	腱鞘、指背腱膜、手関節と手の運動
10	手関節と手の運動③	手のアーチ、手の把持動作パターン
11	手関節と手の運動④	手の機能姿勢、手の変形
12	顔面および頭部の運動	
13	体幹の運動①	頸椎の運動
14	体幹の運動②	胸椎と胸郭の運動
15	体幹の運動③	腰椎の運動

回	テ ー マ	内 容		
16	下肢帯と股関節の運動①	関節と靭帯		
17	下肢帯と股関節の運動②	股関節の動き		
18	下肢帯と股関節の運動③	股関節の筋		
19	膝関節の運動			
20	足の関節と足の運動	アーチの構造と機能		
21	下肢帯と下肢の運動			
22	姿勢・動作①	重心、立位姿勢		
23	姿勢・動作②	立位姿勢の異常		
24	歩行と走行①	歩行周期、異常歩行		
25	歩行と走行②	運動力学的分析		
26	運動発達			
27	呼吸・エネルギー代謝			
28	運動学習			
29	バイオメカニクス①	運動学的分析、円運動、モーメント		
30	バイオメカニクス②	運動法則、身体とてこ、骨と関節の運動		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
基礎運動学（第6版） 中村隆一 医歯薬出版株式会社		期末試験	100.0%	合計が60%未満の場合は、レポート課題を実施します。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅰ（骨学）		理学療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	中 聡之
授業の概要				
<p>人の根本である骨について学び、解剖学Ⅱ（筋学）の起始停止につなげられるようにする。 講義は、基本的に座学で行うが、講義の後半は、骨模型を使用し、視覚的・立体的に骨の名称や配置について理解を深められるようにする。</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ・骨の名称、位置の理解を深めることができる。 ・人体模型を使用し、骨の位置を理解できるようになる ・筋の起始停止、運動方向も含め理解ができるようになる 				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	授業の進め方や試験について		
2	骨格について①	骨格の概論		
3	骨格について②	骨の原理原則		
4	骨格について②	骨格の概論		
5	骨格について②	骨格の概論		
6	骨について	骨のリモデリングについて		
7	脊柱①	脊柱の骨の名称について		
8	脊柱②	イラストを書いて理解しよう		
9	鎖骨・肩甲骨①	鎖骨・肩甲骨の名称について		
10	鎖骨・肩甲骨②	イラストを書いて理解しよう		
11	上腕骨①	上腕骨の名称について		
12	上腕骨②	イラストを書いて理解しよう		
13	橈骨・尺骨①	橈骨、尺骨の名称について		
14	橈骨・尺骨②	イラストを書いて理解しよう		
15	手部①	手部の骨の名称について		

回	テ ー マ	内 容		
16	手部②	イラストを書いて理解しよう		
17	骨盤①	骨盤の名称について		
18	骨盤②	イラストを書いて理解しよう		
19	大腿骨①	大腿骨の名称について		
20	大腿骨②	イラストを書いて理解しよう		
21	脛骨・腓骨①	脛骨、腓骨の名称について		
22	脛骨・腓骨②	イラストを書いて理解しよう		
23	足根部①	足根部の名称について		
24	足根部②	イラストを書いて理解しよう		
25	頭部①	頭部の名称について		
26	頭部②	イラストを書いて理解しよう		
27	まとめ	骨について		
28	まとめ	上肢・体幹		
29	まとめ	下肢・足部		
30	まとめ	手部・頭部		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プロメテウスコアアトラス 標準理学療法学、作業療法学 解剖学 授業資料		小テスト（全5回） 課題（イラスト課題） 期末試験	20.0% 20.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅱ (筋学)		理学療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	中 聡之 (実務経験あり)
授業の概要				
模型触診、動画視聴、イラストを通じて、筋肉を理解する				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体を構成している筋名を列挙できる。 ・ 筋の起始・停止・支配神経が列挙できる。 ・ 筋の起始・停止や走行をイメージして、作用が理解できる。 				
回	テーマ	内 容		
1	概論	オリエンテーション		
2	筋とは	筋の構造について		
3	肩関節の筋肉	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋		
4	肩関節の筋肉	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋		
5	肩関節の筋肉	大円筋、広背筋、大胸筋、烏口腕筋		
6	肩関節の筋肉	大円筋、広背筋、大胸筋、烏口腕筋		
7	肩甲骨の筋肉	僧帽筋、肩甲挙筋、小菱形筋、大菱形筋、小胸筋、前鋸筋		
8	肩甲骨の筋肉	僧帽筋、肩甲挙筋、小菱形筋、大菱形筋、小胸筋、前鋸筋		
9	上腕の筋肉	上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋、円回内筋、腕橈骨筋		
10	上腕の筋肉	上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋、円回内筋、腕橈骨筋		
11	前腕～手指	橈骨手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋 長母指屈筋、方形回内筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋 総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋		
12	前腕～手指	橈骨手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋 長母指屈筋、方形回内筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋 総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋		
13	前腕～手指	回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋 短母指外転筋、短母指屈筋、母指対立筋、母指内転筋		
14	前腕～手指	回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋 短母指外転筋、短母指屈筋、母指対立筋、母指内転筋		
15	手指	短掌筋、小指外転筋、短小指屈筋、小指対立筋、虫様筋 背側骨間筋、掌側骨間筋		

回	テーマ	内 容		
16	下肢の筋肉	縫工筋、大腿直筋、外側広筋、中間広筋、内側広筋、恥骨筋 長内転筋、短内転筋、大内転筋		
17	下肢の筋肉	縫工筋、大腿直筋、外側広筋、中間広筋、内側広筋、恥骨筋 長内転筋、短内転筋、大内転筋		
18	下肢の筋肉	薄筋、外閉鎖筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋 前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母趾伸筋、長腓骨筋、短腓骨筋		
19	下肢の筋肉	薄筋、外閉鎖筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋 前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母趾伸筋、長腓骨筋、短腓骨筋		
20	下肢の筋肉	腓腹筋、ヒラメ筋、足底筋、膝窩筋、長趾屈筋 長母指屈筋、後脛骨筋		
21	下腿の筋肉	腓腹筋、ヒラメ筋、足底筋、膝窩筋、長趾屈筋 長母指屈筋、後脛骨筋		
22	頭部の筋肉 体幹筋群	胸鎖乳突筋、前斜角筋、中斜角筋、後斜角筋 横隔膜、腹直筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋、腰方形筋 腰部多裂筋		
23	頭部の筋肉 体幹筋群	胸鎖乳突筋、前斜角筋、中斜角筋、後斜角筋 横隔膜、腹直筋、外腹斜筋、腹横筋、腰方形筋、腰部多裂筋		
24	寛骨筋群	腸骨筋、大腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋 梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋		
25	寛骨筋群	腸骨筋、大腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋 梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋		
26	足の筋肉	母趾外転筋、短母趾屈筋、母趾内転筋、小趾外転筋、短小趾屈筋 小趾対立筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋、底側骨間筋 短母趾伸筋、短趾伸筋		
27	足の筋肉	母趾外転筋、短母趾屈筋、母趾内転筋、小趾外転筋、短小趾屈筋 小趾対立筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋、底側骨間筋 短母趾伸筋、短趾伸筋		
28	咀嚼筋	側頭筋、咬筋、外側翼突筋、内側翼突筋		
29	咀嚼筋	側頭筋、咬筋、外側翼突筋、内側翼突筋		
30	まとめ	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学「解剖学第5版」 プロメテウスコアアトラス		期末試験 イラスト課題 小テスト	70.0% 10.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅲ (内臓・脈管学)		理学療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	白瀬・竹中 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患 (循環器、呼吸器、泌尿器、消化器、内分泌) の病態を理解するため、講義・演習を通して構造を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・循環器系: 心臓と、脳・上肢・下肢への血液供給を理解する ・呼吸器系: ガス交換に関わる肺と、発生に関わる喉頭について理解する ・消化器系: 胃、腸、肝臓、および嚥下にかかわる構造体を理解する ・泌尿器系: 腎臓および排尿に関わる構造体を理解する ・生殖器系: 男性では精巣および勃起と射精に関わる構造体を理解する 女性では卵巣と子宮の性周期における変化を理解する ・内分泌系: 各内分泌系の特徴を学び、分泌されるホルモンとその主要作用を理解する 				
回	テーマ	内容		
1	総論	理学療法・作業療法との関連事項		
2	血管系	動脈と静脈、毛細血管、吻合と終動脈		
3	心臓 (1)	位置、区分、弁、心臓壁の構成、心膜、刺激伝導系、栄養血管と神経		
4	動脈系・静脈系	肺循環、体循環、上行大動脈、大動脈弓、胸大動脈 腹大動脈、皮静脈、深静脈、特殊循環系		
5	リンパ系 (1)	毛細リンパ管、リンパ管、リンパ節、リンパ本幹、リンパ性器官		
6	鼻	外鼻と鼻腔、副鼻腔		
7	咽頭	嚥下のしくみ、喉頭軟骨、喉頭筋、喉頭の連結、喉頭腔		
8	気管と気管支	気管と気管支、肺		
9	胸膜と縦隔	胸膜と縦隔		
10	消化器系 (口腔)、食道、胃	口蓋、舌、歯、唾液腺、食道、胃		
11	小腸、大腸	十二指腸、空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸		
12	肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜	肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜		
13	泌尿器系・生殖器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道、男性生殖器、女性生殖器		
14	内分泌系	ホルモンと標的細胞		
15	内分泌腺の種類	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵頭 腎臓、視床下部、消化管、心臓、胸腺		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 病気がみえるvol.2 循環器 病気がみえるvol.4 呼吸器		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅲ (神経学)		理学療法科/1年	2022/後期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	竹中・山本・佐藤 (実務経験有)
授業の概要				
中枢神経疾患の特徴を理解するために、それぞれの構造や働きを講義、演習を通して学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 中枢神経系の構造と働きについて概説できる。 2. 脳の構造と働きについて概説できる。 3. 大脳皮質、大脳辺縁系、脳幹、小脳それぞれの機能と構造について説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	神経系総論	神経系の区分		
2	神経系の構成	神経組織、中枢神経系の構成、末梢神経系の構成		
3	髄膜と脳室系	髄膜と脳室系の構成		
4	神経系の発生	脊髄、脳、末梢神経の発生		
5	脊髄	脊髄の外形と横断面		
6	脳幹	延髄		
7	脳幹	橋		
8	脳幹	中脳、網様体		
9	小脳	小脳の外形と区分		
10	小脳	小脳の入出力と機能		
11	大脳	間脳		
12	大脳	大脳半球		
13	大脳	大脳皮質と髄質		
14	大脳	大脳皮質の機能局在		
15	大脳	大脳基底核		

回	テ ー マ	内 容		
16	神経路	上行性神経路①		
17	神経路	上行性神経路②		
18	神経路	下行性神経路①		
19	神経路	下行性神経路②		
20	脊髄神経	頸神経		
21	脊髄神経	頸神経		
22	脊髄神経	腰神経		
23	脊髄神経	腰神経		
24	脊髄神経	仙骨神経		
25	脊髄神経	仙骨神経		
26	脳神経	嗅神経、視神経、動眼神経		
27	脳神経	滑車神経、三叉神経、外転神経		
28	脳神経	顔面神経、内耳神経、舌咽神経		
29	脳神経	迷走神経、副神経、舌下神経		
30	自律神経	交感神経系、副交感神経系		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版 医学書院 病気がみえるVol.7 脳・神経 第2版		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報リテラシー I (入門)		理学療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	木下(実務経験あり)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習を通じて、ネット社会で情報を安全に使いこなすための基礎知識を学ぶ。 ・Word・Excel・PowerPointの基礎的な知識・操作技術を学ぶ。 ・PC操作やタッチタイピングに慣れる。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
情報化社会のモラルやセキュリティ対策などについて理解する。 PCの基本的な操作技術を獲得する。 Wordの基本的操作を理解し、文章やレポートを作成できる。 Excelの基本的操作を理解し、表・グラフを作成できる。 PowerPointの基本操作を理解し、資料を作成できる。				
回	テーマ	内 容		
1	情報リテラシーとは	情報化社会のモラルとセキュリティ		
2	情報を安全に使いこなすために①	個人情報や著作権の取り扱い		
3	情報を安全に使いこなすために②	Webやメールによるコミュニケーション モバイル機器の活用と管理		
4	基本的なPC操作とタイピング	PC操作の基本(Web授業に要する操作含む) ブラインドタッチの基礎		
5	Wordの活用①	レポートの作成		
6	Wordの活用②	Wordの基本操作		
7	Excelの活用	Excelの基本操作		
8	Power Pointの活用	Power Pointの基本操作		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編：FOM出版		確認テスト 課題・レポート	40.0% 60.0%	各自ノートパソコンを持参すること。 (*事前に満充電にしておくこと) 公欠以外の理由による課題の提出期限延長は認めない。 提出できなかった場合は、その課題分の得点は0点とする。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報リテラシーⅡ（基礎）		理学療法科/1年	2022/後期	講義 （一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	木下（実務経験あり）
授業の概要				
<p>情報リテラシーの必要性や必要な能力について実践を通して再確認する。 プレゼンテーション発表までの過程を通して、様々なPC操作や資料・データの収集方法や活用方法を学んだり、他者と協力し意見交換・問題解決しながら課題に取り組む実践的な経験を積む。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>情報リテラシーの必要性を理解し説明・実践できる。 プレゼンテーションに必要な資料・データを適切に収集したり活用できる。 伝わりやすいプレゼンテーション・資料作りの方法を学ぶ。 他者と協力して課題に取り組む、プレゼンテーション発表ができる。</p>				
回	テーマ	内 容		
1	伝わりやすいスライド	伝わりやすいスライド資料とは		
2	伝わりやすいスライド	伝わりやすい資料の作成		
3	プレゼンテーション準備	テーマ決め、情報・データ収集		
4	プレゼンテーション準備	構成を考える		
5	プレゼンテーション準備	スライド資料の作成		
6	プレゼンテーション準備	スライド資料の作成		
7	プレゼンテーション準備	発表練習・修正		
8	プレゼンテーション発表	発表と振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編：FOM出版		課題・レポート 確認テスト	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
食育学		理学療法科/1年	2022/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	鈴木敦史(実務経験者)
授業の概要				
食育とはなにか解説し、食育の現状と課題について講義する。またライフスタイルごとの食育、日本と諸外国での食文化を比較しながら講義を進めていく。 栄養についても栄養素の種類とそれらが体に及ぼす影響について講義し、さらに基礎代謝量やエネルギー消費量についての講義、計算方法も解説していく。【実務経験】レストラン勤務				
授業終了時の到達目標				
食育の現状と課題について理解する。 日本と諸外国の食文化の違いを知る。 栄養素の種類とそれらの作用を理解する。 基礎代謝量とエネルギー消費量を算出できる。				
回	テーマ	内容		
1	調理実習①	清潔、まな板・包丁の使い方		
2	調理実習①	清潔、まな板・包丁の使い方		
3	調理実習②	西洋料理		
4	調理実習②	西洋料理		
5	調理実習③	日本料理		
6	調理実習③	日本料理		
7	調理実習④	日本料理		
8	調理実習④	日本料理		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		レポート課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学		理学療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	15回	1単位(30時間)	必須 深澤大地(実務経験者)	
授業の概要				
心理学とはなにか。学問的に解説した後、学生に身近な心理的要素を例に出し、共にどんな心理が働くか見ていく。そして、自分について心理的分析を試みて、自身の心理的特徴を理解し、恋愛場面や対人関係における心理を考えてみる。この講義の最後には心理の発達について講義しまとめへとつなげていく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
心理学という学問を理解する。 自己分析できる。 自己を理解し、他者との心理の違いを理解して日常生活場面での対人関係に生かせる。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	心理学概論		
2	心理学とは何か	心を扱うこと(倫理)		
3	感じるころ	知覚とは		
4	見るころ	視覚と錯覚		
5	学習について	条件付け		
6	動機づけ	内発的動機付けと外発的動機付け		
7	考えるころ	意識と無意識		
8	自己理解1	エゴグラムから自己を知る		
9	自己理解2	自分の性格を知る		
10	心理学からみた恋愛1	恋愛と心理学Ⅰ		
11	心理学からみた恋愛2	恋愛と心理学Ⅱ		
12	対人魅力と対人関係	対人魅力とは		
13	発達について1	乳幼児期の発達		
14	発達について2	児童期・思春期の発達		
15	まとめ	メンタルヘルスについて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学 I (総論)		理学療法科/1年	2022/後期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	竹中誠(実務経験有)
授業の概要				
神経疾患による障害に対して理学療法や作業療法を行うためには、これらの疾患に関する十分な知識をもつことと、これら疾患の患者の中で多数を占める高齢者の精神身体面の特徴、ことに加齢に伴う内科疾患などの合併症について十分な知識が必要である。本科目では各論を学ぶ上で必要となる神経症候学についての基礎知識を習得することを目的とする。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
神経学的診断や症候について評価する上で必要となる知識を習得する				
回	テーマ	内容		
1	神経学的診断と評価	神経学的診断の実際、体幹・四肢の診療と検査 障害の評価		
2	神経学的検査法	画像診断、神経生理学的検査、自律神経機能検査 腰椎穿刺と血液生化学検査		
3	神経症候学	意識障害、脳死、植物状態		
4	神経症候学	頭痛、めまい、失神		
5	神経症候学	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮		
6	神経症候学	錐体外路徴候、不随意運動		
7	神経症候学	運動失調		
8	神経症候学	感覚障害		
9	神経症候学	高次脳機能障害：総論、失語症		
10	神経症候学	高次脳機能障害：失認、失行		
11	神経症候学	高次脳機能障害：記憶障害		
12	神経症候学	高次脳機能障害：注意障害、遂行機能障害		
13	神経症候学	構音障害		
14	神経症候学	嚥下障害		
15	神経症候学	脳神経外科領域疾患の代表的症候		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版 改訂第2版 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間発達学		理学療法科/1年	2022/後期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	杉本和彦(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・正常発達について ・発達心理学について ・小児疾患における運動発達の問題点について ・発達障害について 【実務経験】病院勤務 				
授業終了時の到達目標				
小児の運動面、認知面の発達に関する知識及び生涯にわたる発達の意味を理解する				
回	テーマ	内容		
1	小児の保健概論	身長と体重の変化 スキャモンの発達曲線 発達に関する定義		
2	胎児の運動発達	胎芽と胎児の発達過程 早期産、未成熟児の抱える問題について		
3	1歳児までの粗大運動の発達について1	原始反射、姿勢反射・反応について		
4	1歳児までの粗大運動の発達について2	首のすわり、寝返りの獲得までの発達のポイントについて		
5	1歳児までの粗大運動の発達について3	座位獲得の意味するところについて		
6	1歳児までの粗大運動の発達について4	立ち上がり、歩行獲得までの発達のポイントについて		
7	1歳児以降の運動の発達について1	3歳までの粗大運動の発達過程について		
8	1歳児以降の運動の発達について2	4～6歳までの粗大運動の発達について		
9	手の機能と摂食・嚥下機能の発達について	粗大運動の発達をベースにした微細運動の発達過程について		
10	発達心理学概論1	感覚・知覚・認知の発達、知的活動の発達、心の理論		
11	発達心理学概論2	エリクソンの発達課題、老年期の課題		
12	運動発達に困難さを示す小児疾患について(GP)1	脳性まひの発達における困難さについて(両麻痺、四肢麻痺)		
13	運動発達に困難さを示す小児疾患について(GP)2	脳性まひの発達における困難さについて(片麻痺、アテトーゼ)		
14	運動発達に困難さを示す小児疾患について(GP以外の)3	筋ジストロフィー、二分脊椎、ダウン症の発達における困難さについて		
15	発達障害について	自閉症スペクトラム、ADHD、LD児の有する発達上の困難さについて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる人間発達学 上杉雅之監修 医歯薬出版		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生物学		理学療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	福田保(実務経験有)
授業の概要				
生物学から生命現象を理解することは、生物界の一員である人間を理解する上で大変重要である。本講義では生物の最小単位である細胞から講義を進め、生体内の化学反応、分子遺伝学について講義した後、生物の各器官系について順に講義していく。【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
細胞の構造、働きを理解する。 分子遺伝学を理解する。 生物の各器官系の構造、働きを理解する。				
回	テーマ	内容		
1	生命体のつくりとはたらき	生物の進化、生物の共通性、顕微鏡の歴史		
2	顕微鏡と細胞	分解能、細胞の構造1		
3	細胞の化学成分	細胞の構造2、細胞の成分		
4	体内の化学反応	代謝、確認テスト、酵素		
5	光合成と呼吸	光合成と呼吸		
6	細胞の増殖	細胞分裂		
7	ATPの生合成のまとめ	確認テスト、染色体		
8	遺伝情報の担い手	遺伝学の歴史1		
9	DNA複製・タンパク質の合成	遺伝学の歴史2		
10	ヒトの遺伝・変異	ヒトの遺伝学		
11	遺伝のまとめ	確認テスト、ホメオスタシス		
12	個体の調整1	呼吸系、消化系		
13	個体の調整2	循環系、免疫系1		
14	個体の調整3	免疫系2、神経系		
15	個体の調整4	内分泌系		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「系統看護学講座 生物学」高畑 雅一 他 著 医学書院		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅰ（呼吸・循環・代謝）		理学療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	西潟・山本・小島 竹中・白瀬（実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患（循環器、呼吸器）の病態を理解するため、講義・演習を通して機能を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・血液の機能を理解できる ・循環器系の機能を理解できる ・呼吸器系の機能を理解できる ・代謝の機能を理解できる 				
回	テーマ	内 容		
1	総論	理学療法士と作業療法士との関連事項		
2	血液（1）	血液の組成と機能		
3	血液（2）	赤血球		
4	血液（3）	白血球、血小板		
5	血液（4）	血漿		
6	血液（5）	血液型		
7	心臓と循環（1）	血液の循環		
8	心臓と循環（2）	心臓の興奮と刺激伝導系		
9	心臓と循環（3）	心電図1		
10	心臓と循環（4）	心電図2		
11	心臓と循環（5）	血液の拍出と血圧		
12	心臓と循環（6）	心周期		
13	心臓と循環（7）	圧-容積関係		
14	心臓と循環（8）	心機能曲線		
15	心臓と循環（9）	血圧の調節		

回	テ ー マ	内 容		
16	心臓と循環（10）	微小循環と物質交換		
17	心臓と循環（11）	静脈還流		
18	心臓と循環（12）	臓器循環		
19	心臓と循環（13）	リンパ循環		
20	呼吸とガスの運搬（1）	外呼吸と内呼吸		
21	呼吸とガスの運搬（2）	気道と肺胞		
22	呼吸とガスの運搬（3）	呼吸運動		
23	呼吸とガスの運搬（4）	呼吸気量		
24	呼吸とガスの運搬（5）	ガス交換とガスの運搬		
25	呼吸とガスの運搬（6）	呼吸の調節		
26	呼吸とガスの運搬（7）	病的呼吸		
27	代謝と体温（1）	栄養素		
28	代謝と体温（2）	エネルギー代謝		
29	代謝と体温（3）	体温		
30	まとめ	国家試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 病気がみえるvol.2 循環器 病気がみえるvol.4 呼吸器		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅱ（泌尿器・内分泌・消化・感覚）		理学療法科/1年	2022/後期	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	山本・白瀬 （実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患（泌尿器、消化器、内分泌）の病態を理解するため、講義・演習を通して機能を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・泌尿器の機能を理解できる ・酸塩基平衡を理解できる ・消化器系の機能を理解できる ・感覚器系の機能を理解できる 				
回	テーマ	内 容		
1	概論	理学療法・作業療法との関連事項		
2	泌尿器（1）	腎臓の役割1		
3	泌尿器（2）	腎臓の役割2		
4	泌尿器（3）	腎臓の構造		
5	泌尿器（4）	尿の生成		
6	泌尿器（5）	クリアランス		
7	泌尿器（6）	排尿		
8	泌尿器（7）	尿の性状と排尿の異常		
9	酸塩基平衡（1）	血漿のpH調節		
10	酸塩基平衡（2）	アシドーシスとアルカローシス		
11	消化（1）	消化器の役割		
12	消化（2）	口腔内消化と嚥下		
13	消化（3）	食道における食物輸送		
14	消化（4）	胃の役割と消化		
15	消化（5）	十二指腸における消化		

回	テ ー マ	内 容		
16	消化（6）	空腸・回腸における消化と栄養素の吸収		
17	消化（7）	大腸の役割		
18	消化（8）	肝臓の役割 1		
19	消化（9）	肝臓の役割 2		
20	感覚（1）	感覚とは		
21	感覚（2）	体性感覚		
22	感覚（3）	内臓感覚		
23	感覚（4）	特殊感覚 1		
24	感覚（5）	特殊感覚 2		
25	感覚（6）	特殊感覚 3		
26	内分泌（1）	内分泌機能とホルモン		
27	内分泌（2）	内分泌機能とホルモン		
28	内分泌（3）	各腺から分泌されるホルモンの作用 1		
29	内分泌（4）	各腺から分泌されるホルモンの作用 2		
30	内分泌（5）	各腺から分泌されるホルモンの作用 3		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域理学療法論Ⅰ（総論）		理学療法科/1年	2022/後期	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	小島利彦（実務経験有）
授業の概要				
リハビリテーションの理念を基に、地域リハビリテーションについての理解を深め、理学療法の役割や考えかた、方法を学ぶ。地域におけるサービス（通所、訪問、健康教室など）についても学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 地域リハビリテーションの概念、理学療法士と他職種の連携の重要性を理解する。 2. 地域リハ、在宅、訪問、通所など、病院以外での理学療法士の関わりについて理解する。				
回	テーマ	内容		
1	地域リハビリテーションの概念	地域リハビリテーションの定義、活動指針		
2	要介護認定とケアマネジメント	要介護・要支援とサービス		
3	地域リハをめぐる諸制度	地域リハをめぐる諸制度		
4	医療・保健・福祉の連携の意義と方法	医療・保健・福祉の連携の意義と方法		
5	地域包括支援センターの役割	地域包括ケアシステムと包括支援センター		
6	施設、通所リハビリの意義と方法	施設、通所リハビリの意義と方法		
7	訪問リハの意義と方法	訪問リハの意義と方法		
8	精神領域における地域リハサービス	精神領域における地域リハサービス		
9	発達障害領域における地域リハサービス	発達障害領域における地域リハサービス		
10	障害者の就労支援と理学療法	障害者の就労支援と理学療法		
11	介護予防における理学療法士の役割	介護予防における理学療法士の役割		
12	地域理学療法の目的、評価、目標、計画	地域理学療法の目的、評価、目標、計画		
13	地域理学療法における指導の考え方	地域理学療法における指導の考え方		
14	国際保健とCBR	CBRの定義、目標、今後の展開		
15	地域における社会資源			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
統計学		理学療法科/1年	2022/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位 (15時間)	必須	西潟央 (実務経験有)
授業の概要				
<p>近年、サービスの質を評価する手法として統計学的側面からのアプローチがなされており、分析ソフトの発達などを背景として、その関心は高まりつつある。本講義においては、こうした流れと今後の方向性を踏まえた上で、統計学の基礎的知識の習得を目的とする。</p> <p>【実務経験】 病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 統計学の必要性について説明できる。 ・ 取り扱うデータの尺度について理解できる。 ・ 正規分布について理解できる。 ・ 研究で用いる必要な統計手法を選択できる。 				
回	テーマ	内 容		
1	統計の基礎			
2	尺度	名義・順序・間隔・比率尺度		
3	検定			
4	t 検定	対応の有無		
5	Mann Whitney検定			
6	カイ2乗検定			
7	3群間の比較	分散分析とフリードマン検定		
8	相関と多重比較検定	相関分析とロジスティック回帰分析		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
すぐできる リハビリテーション統計 (南江堂、2012)		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学 I (総論)		理学療法科/1年	2022/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位 (30時間)	必須	山田、武田 (実務経験有)
授業の概要				
内科学診断のためのアプローチや治療法について学習する。また、療法士としての必要な内科学の基本的な知識を習得することを目標とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科学に関する基本的知識、各種疾病の病態概念、治療のアウトライン等を得得する 1. バイタルサインを正しく測定できる 2. 患者さんの訴えおよび症候から内科疾患を絞り定める 3. 内科学の全領域を学習し、リハビリテーション治療を受ける患者さんの基礎疾患の病態を理解できる 4. 感染症を理解して公衆衛生学観点から感染を予防するなど危機管理に努める 5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの微小な病態変化を迅速に察知し、最適な対応がとれる				
回	テーマ	内容		
1	内科学総論	リハビリテーションとの関係 診断と治療の実際		
2	症候学	症候とは何か 主要な症候を生じる病態と関連疾患		
3	循環器疾患 1	循環器系の解剖と生理		
4	循環器疾患 2	主要な症候		
5	循環器疾患 3	診断法		
6	疾患各論 1	高低血圧症、心疾患		
7	疾患各論 2	大動脈疾患、末梢血管疾患		
8	呼吸器疾患 1	解剖と生理		
9	呼吸器疾患 2	主要な症候と病態生理		
10	呼吸器疾患 3	臨床検査所見		
11	疾患各論 1	COPD、肺疾患		
12	疾患各論 2	呼吸不全、異常呼吸		
13	血液・造血器疾患	主要な症候と病態生理		
14	代謝性疾患	主要な症候と病態生理		
15	まとめ、復習	振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版 配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動Ⅰ(基礎)		理学療法科/1年	2022/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山森克洋(実務経験有)
授業の概要				
ADLとはなにか?福祉用具や車いすや歩行器、杖などの歩行補助具について使い方を学ぶ。 障害者・高齢者用体験グッズを装着し、日常生活を体験をする。 基本動作について学ぶ。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ADLと基本動作について理解する。 ・杖や車椅子の名称や使用方法、介助方法を獲得する。 				
回	テーマ	内容		
1	ADL概論	ADLについて		
2	福祉用具	福祉用具の種類、対象疾患、使用方法		
3	松葉杖の使い方①	松葉杖の処方、歩行		
4	松葉杖の使い方②	松葉杖の立ち座り、階段昇降		
5	杖の処方①	杖の種類、処方		
6	杖の処方②	杖での歩行、階段		
7	車椅子の処方	車椅子の種類、各部の名称、処方		
8	車椅子移動	車椅子の駆動、介助法、歩行器		
9	歩行補助具の屋外体験①	松葉杖、T字杖、シルバーカーなどを屋外で体験 (歩道、横断歩道、歩道橋など)		
10	歩行補助具の屋外体験②	松葉杖、T字杖、シルバーカーなどを屋外で体験 (歩道、横断歩道、歩道橋など)		
11	障害者・高齢者のADL①	障害者・高齢者体験グッズを装着してのADL体験		
12	障害者・高齢者のADL②	障害者・高齢者体験グッズを装着してのADL体験		
13	起居動作①	寝返り・起き上がり		
14	起居動作	端坐位からの立ち上がり・立ち座り		
15	起居動作③	床からの立ち上がり、立ち座り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法 I (総論)		理学療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中 聡之(実務経験あり)
授業の概要				
<p>評価の意義、目的を知る バイタルサインについて知り、実施する。 形態測定の意義を知り、実施する。 【実務経験】施設勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・評価の意義、目的を知り理解する。 ・バイタルサインについてその数値の示す意味を理解し、実施できる。 ・メジャーを用いて四肢長・周径測定ができる。 				
回	テーマ	内 容		
1	総論①	理学療法評価の総論		
2	バイタルサイン①	脈拍、血圧について		
3	バイタルサイン?	脈拍測定の実技		
4	バイタルサイン③	呼吸、酸素飽和度、リハビリテーションの中止基準について		
5	バイタルサイン④	血圧測定の実技		
6	形態測定	概論		
7	形態測定	上肢周径①		
8	形態測定	上肢周径②		
9	形態測定	下肢周径①		
10	形態測定	下肢周径②		
11	形態測定	上肢長①		
12	形態測定	上腕長②		
13	形態測定	下肢長①		
14	形態測定	下肢長②		
15	形態測定	形態測定まとめ②		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「理学療法評価学 改訂第6版」松澤 正 著 金原出版株式会社		期末試験	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法Ⅱ（基礎）		理学療法科／1年	2022／後期	演習（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	水上涼介（実務経験有）
授業の概要				
<p>各関節の可動域をゴニオメーターを用いて測定する。 関節可動域制限のある場合の動作を予測する。 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ゴニオメーターを用い、日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会による「関節可動域表示ならびに測定法」にそって測定し、記録できる。 ・正常可動域を理解する。 ・関節可動域の異常について考察できる。 				
回	テーマ	内容		
1	関節可動域検査の概要	目的、運動方向、表示法、ゴニオメーター、activeとpassive、		
2	ROM-T(上肢)	肩関節①		
3	ROM-T(上肢)	肩関節②		
4	ROM-T(上肢)	肩甲帯		
5	ROM-T(上肢)	肘関節・前腕		
6	ROM-T(上肢)	手関節・手指		
7	ROM-T(下肢)	股関節①		
8	ROM-T(下肢)	股関節②		
9	ROM-T(下肢)	膝関節・足関節		
10	ROM-T(下肢)	足関節		
11	ROM-T(下肢)	下肢のまとめ		
12	ROM-T(体幹)	頸部		
13	ROM-T(体幹)	体幹		
14	ROM-Tのまとめ	上肢・下肢・体幹 別法の確認		
15	拘縮と強直、変形	拘縮と強直、変形		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「理学療法評価学」松澤正・江口勝彦 著 ゴニオメーター		期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学概論		理学療法科/1年	2022/後期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	野口、田中、高木(実務経験有)
授業の概要				
全講義15回。 病理学では生体が機能低下に陥った時の反応を学ぶ科目である。したがって生理学を理解していることが前提となる。 病理学でも各器官ごとの病態を解説していく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各器官ごとの病態を理解する。				
回	テーマ	内容		
1	総論①(先天異常、代謝障害)	病理学総論、先天異常、代謝障害		
2	総論②(進行性病変、循環障害)	進行性病変、循環障害		
3	総論③(炎症、腫瘍)	炎症、腫瘍		
4	総論④(免疫病理と感染症)	免疫病理と感染症		
5	循環障害	局所循環障害、全身性循環障害		
6	炎症	炎症細胞、炎症の分類		
7	免疫	免疫病理		
8	感染症	感染源、感染症の成立		
9	代謝障害	萎縮、蛋白変性、脂肪・糖原・色素変性		
10	老化、新生児、遺伝	老化と病気、正常生ま		
11	腫瘍	腫瘍の定義と分類、形態		
12	消化器、呼吸器	口腔・消化管、肝臓、膵臓		
13	造血器、腎臓	機能と形態		
14	内分泌、神経、運動器	機能と形態		
15	定期試験、まとめ	病理診断		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「カラーで学べる 病理学 第4版」渡辺照男 編 ニューベルヒロカワ		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理学		理学療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	佐倉正樹(実務経験者)
授業の概要				
物理学とはなにか解説した後、リハビリの分野で特に理解が必要となる「ちから」について講義8回進めていく。 後半は試験にむけて問題を解きながら理解度を確認していく 【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
「ちから」について理解する 「てこ」について理解する 物理分野の国家試験問題に対応できる				
回	テーマ	内容		
1	物理学で何を学ぶか	概論		
2	力の表し方、重力	スカラーとベクトル 力の単位、力の3要素		
3	力のつり合いと作用・反作用①	重力、重心、力のつり合い		
4	力のつり合いと作用・反作用②	つり合いの2力と作用・反作用		
5	いろいろな力、 $F=ma$ 、ベクトルの足し算	重力、張力、弾性力、垂直抗力、摩擦力、浮力、揚力、アルキメデスの原理		
6	力の合成・分解①	$F=ma$ を用いた運動計算の練習		
7	力の合成・分解②	カベクトルの合成・分解と練習		
8	てこの種類と原理①	てこの原理と種類1		
9	てこの種類と原理②	てこの原理と種類2		
10	力のモーメント	力のモーメントの練習問題		
11	力のモーメントと関節運動①	人体の関節における第1のてこ		
12	力のモーメントと関節運動②	人体の関節における第2、第3のてこ		
13	重力加速度	重力加速度の練習問題		
14	問題演習①	国家試験問題		
15	問題演習②	国家試験問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理療法Ⅰ(温熱・寒冷・超音波・光線・牽引)		理学療法科/1年	2022/後期	演習(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高原 美恵(実務経験有)

授業の概要

疼痛の生理学
可動域制限のメカニズム
物理療法の基礎
物理療法の適応、効果、禁忌を学ぶ
物理療法機器の使用方法を学ぶ
【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

疼痛の生理学を理解する
可動域制限のメカニズムを理解する
物理療法の基本、原理を理解する
物理療法の適応、効果、禁忌を理解する
物理療法機器の使用方法を学ぶ

回	テーマ	内容
1	疼痛	疼痛の生理学
2	可動域制限	可動域制限のメカニズム
3	温熱療法①	温熱療法(伝導熱)の基本、原理 伝導熱: ホットパック、パラフィン浴
4	温熱療法②	温熱療法(輻射熱)の基本、原理 輻射熱: 赤外線療法
5	温熱療法③	温熱療法(エネルギー変換熱)の基本、原理 エネルギー変換熱: 超短波療法、極超短波療法
6	寒冷療法	寒冷療法の基本、原理 寒冷療法: アイスパック、冷水浴、コールドスプレー
7	超音波療法①	超音波療法の基本、原理 超音波機器、超音波診断装置
8	超音波療法② 実習	超音波機器の実演、体験
9	光線療法①	光線療法の基本、原理 紫外線療法、レーザー療法
10	牽引療法	牽引療法の基本、原理(デルマトーム含む) 自重牽引、牽引療法機器
11	グループ課題①	物理療法機器の使用方法を学ぶ 目的、効果、禁忌を学ぶ
12	グループ課題②	物理療法機器の使用手法資料作成
13	グループ発表①	物理療法機器の使用手法、目的、効果、禁忌など グループ発表
14	グループ発表②	グループ発表
15	物理療法機器の使用体験	物理療法使用体験、演習

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「エビデンスから身につける物理療法」羊土社	確認テスト 課題・レポート 期末試験	10.0% 20.0% 70.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法概論		理学療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟 央(実務経験あり)
授業の概要				
リハビリテーション概論で学んだリハビリテーション理念や実態、評価、治療、障害特性について 理学療法士はどのようにリハビリテーションを行っていくのか 理学療法士は理学療法を実際にどのように使っていくのかについて学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士とは?という問いかけに対して自分なりの答えを出せる ・各疾患におけるリハビリテーション、そこでの理学療法士の役割について答えることができる 				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	オリエンテーション 理学療法士とは		
2	理学療法とは	障害総論		
3	病期について	各論		
4	感染症について	各論		
5	健康寿命・廃用症候群	各論		
6	健康寿命②	各論		
7	メタボリックシンドローム	各論		
8	ロコモティブシンドローム	各論		
9	復習	各論		
10	理学療法士作業療法士法	各論		
11	地域包括ケアシステム	各論		
12	介護保険制度①	各論		
13	介護保険制度②	各論		
14	介護保険制度③	各論		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版」栢森良二 医歯薬出版株式会社 配布資料		期末試験	100.0%	授業ごとに出る課題を期限内に提出することで課題点を与える。15回終了時に課題点で6割に届かなかったものは期末試験を受けること

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床見学実習 I		理学療法科/1年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		1単位(40時間)	必須	中・西潟・高原・山本(実務経験有)
授業の概要				
<p>病院にて、見学実習を3日間行い、その前後に学校で2日分の課題を行う。 見学を通して以下のことを学習同期を確認する。②これまで学習したことの意義を理解し、今後の学習意欲の向上を行う。③社会人、医療従事者としての責任的行動の遂行を心掛ける。④病院における理学療法部門の位置づけを理解する。⑤理学療法士の業務の内容を把握する。⑥患者や利用者との関わり方についてイメージを持つ。【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①病院のスケジュールに従って行動することができる。学生は施設の規則を遵守し、職員・患者に対する礼儀をわきまえ、見学担当者の指示に従うことができる。②職員・患者に対して社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶・言葉遣い等)がとれる。③学生間や患者との不用意な会話は慎むことができる。また、患者について知り得た情報の守秘義務を守ることができる。</p>				
回	テーマ	内容		
1				
2				
3		令和4年3月6日～3月24日の間に、1週間(40時間)実施。コロナ感染拡大にて日程変更有り。		
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題レポート、デイリーノートの提出、出欠、実習態度、等により評定。	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床心理学		理学療法科／1年	2022／後期	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	深澤大地（実務経験者）
授業の概要				
臨床心理学とは何か解説した後、ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について解説していく。 講義後半ではカウンセリングについて講義し、カウンセリングの流れを解説していく。また事例を挙げても解説を加え、注意点も合わせて説明していく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について理解する。 カウンセリングの流れを知る。				
回	テーマ	内容		
1	臨床心理学とは	臨床心理とは？臨床心理学総論		
2	乳幼児のころ	乳幼児期		
3	乳児期のころ	幼児期		
4	乳児期のころの問題	幼児期の心理的問題		
5	児童期のころ	児童期		
6	思春期のころ	思春期①		
7	思春期のころの問題	思春期②		
8	青年期・成人期のころ	青年期、成人期		
9	カウンセリング1	カウンセリングについて～導入～		
10	カウンセリング2	カウンセリングについて～方法～		
11	カウンセリング3	カウンセリングについて～解釈～		
12	カウンセリング4	カウンセリングについて～解釈～		
13	こどものカウンセリング	子どものカウンセリング		
14	保護者支援	保護者支援		
15	まとめ	復習とまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法管理学Ⅰ (職業倫理・職場管理)		理学療法科/2年	2022/後期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟・中(実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士として勤務する臨床(病院・地域)、教育、研究領域における倫理、管理について、ディスカッションを含めながら理解を深める。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 理学療法の実施手順について理解し、説明できる。2. 理学療法士の専門職倫理の意義を理解し、説明できる。3. 職場の組織について理解し、説明できる。4. 職場管理(診療記録と書類管理)について理解し、説明できる。5. 理学療法実施時の安全管理や危機管理を理解し、実施できる。6. 理学療法機器の配置計画や管理について理解し、説明できる。7. 他の医療職種との業務調整、連携の重要性を理解し、説明できる。8. 職場倫理(ハラスメント)について理解し、説明できる。9. 医療保険制度、介護保険制度について理解し、説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	管理の概念①	理学療法管理学の職業倫理と職場管理の概念と構造を教授する。		
2	管理の概念②	医学・医療の相違、医療と福祉の相違、哲学と倫理学と法律や道徳の相違などの語句の意味を説明する。		
3	理学療法士の専門職倫理の意義	「ヒポクラテスの誓い」から「PT協会の倫理規定」の経過と意義を説明する。		
4	理学療法士の職業倫理	対象者(患者)の権利・尊厳の意義を説明する。守秘義務、個人情報保護、インフォームド consent(アセント)の意義を説明する。		
5	理学療法業務の管理	医師の処方のもと理学療法を実施し、診療録を記載する義務があり、患者に対して守るべきモラルを教授する。		
6	理学療法士の職場管理	「理学療法士及び作業療法士法」と関連する法律などにより、医療専門職種と位置づけられていることを説明する。		
7	医療機能の分化とチーム医療	近代の医療機能が専門分化されてきているので、専門職連携・統合を目指すチーム医療(シンメディカル)が重要になってきていることを教授する。		
8	教育・研究の管理	高度の専門知識と技能及び倫理を持ち続けるよう、生涯教育と問題解決能力を高める必要性を説明する。研究倫理規定にも触れる。		
9	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント	医療保険制度・介護保険制度を通して、理学療法を実施していることを紹介する。		
10	医療安全管理の重要性	医療専門職種として、理学療法室内や理学療法領域で使用している機器の保全・管理は責務であることを教授する。		
11	疾患別・病期別の理学療法マネジメント	いかなる疾患であれ、理学療法を実施するには障害像を把握することが重要である。そのうえで、疾患が有する特徴的なリスクを回避しながら理学療法を遂行することが重要であることを教授する。		
12	急性期病院での理学療法マネジメント	疾患の急性期は病態が安定せず、患者の不安や意識清明でない中の理学療法も遂行されるので、細心の注意を払うことの重要性を具体例を通して解説する。		
13	回復期病院での理学療法マネジメント	回復期リハビリテーション病棟での理学療法は、在宅復帰や社会参加を目指して活動能力の向上を支援する上での注意点を具体例を通して解説する。		
14	生活期を支援する理学療法マネジメント(介護老人保健施設等)	疾患特有の合併症に向き合いながら社会参加をしている障がい者や高度の障害により在宅医療を受けながら社会参加している者への対応の仕方を具体例を通して解説する。		
15	理学療法を専攻する学生へのメッセージ	臨床・教育・研究領域での活動やエピソードを紹介し、学生と臨床実習や就職に関することを討論する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
理学療法管理学 編著者代表; 奈良勲, 医歯薬出版		定期試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ理学療法学		理学療法科/2年	2022/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	高原 美恵 (実務経験有)
授業の概要				
スポーツ障害に対する評価、治療アプローチ方法を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ障害に対する評価、治療方法を理解する				
回	テーマ	内容		
1	ハムストリングス肉離れ、腸脛靭帯炎	ハムストリングス肉離れ、腸脛靭帯炎の受傷機転、疾患、評価、治療		
2	下腿三頭筋肉離れ、アキレス腱炎	下腿三頭筋肉離れ、アキレス腱炎の受傷機転、疾患、評価、治療		
3	足関節捻挫、有痛性外脛骨、Jonse骨折	足関節捻挫、有痛性外脛骨、Jonse骨折の受傷機転、疾患、評価、治療		
4	ジャンパー膝	ジャンパー膝の受傷機転、疾患、評価、治療		
5	半月板損傷	半月板損傷の受傷機転、疾患、評価、治療		
6	前十字靭帯損傷	前十字靭帯損傷の受傷機転、疾患、評価、治療		
7	股関節唇損傷	股関節唇損傷の受傷機転、疾患、評価、治療		
8	臼蓋形成不全	臼蓋形成不全の受傷機転、疾患、評価、治療		
9	腰椎分離症、腰椎ヘルニア	腰椎分離症、腰椎ヘルニアの受傷機転、疾患、評価、治療		
10	肩峰下インピンジメント症候群 投球障害肩	肩峰下インピンジメント症候群、投球障害肩の受傷機転、疾患、評価、治療		
11	肩関節脱臼、反復性肩関節脱臼	肩関節脱臼、反復性肩関節脱臼の受傷機転、疾患、評価、治療		
12	腱板損傷、腱板断裂	腱板損傷、腱板断裂の受傷機転、疾患、評価、治療		
13	手関節障害	手関節障害の受傷機転、疾患、評価、治療		
14	テニス肘 (上腕骨外側上顆)	テニス肘 (上腕骨外側上顆) の受傷機転、疾患、評価、治療		
15	野球肘、 上腕骨小頭障害	野球肘、上腕骨小頭障害の受傷機転、疾患、評価、治療		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
スポーツ理学療法学		実習・実技評価 確認テスト 期末試験	30.0% 20.0% 50.0%	実技評価ができない場合はレポートで30%評価とする。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学Ⅱ		理学療法科/2年	2022/前期	演習 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	小島利彦(実務経験有)
授業の概要				
<p>股関節、膝関節、足関節、体幹の各分野において構造・機能が理解できるように講義を実施する。 また、各関節の動きに関与する筋を覚え、触診し、動かせるよう演習を実施する。 各関節に関連した評価やストレッチについて演習する。 歩行分析についての講義後に、繰り返し分析練習を実施しレポートの作成をする。 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>股関節、膝関節、足関節、体幹の各分野において構造・機能を理解することができる。 各関節の動きに必要な筋を覚え、動かし、説明することができる。 各関節に関連した評価手技やストレッチを行うことができる。 歩行分析をすることができる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	股関節	股関節の機能解剖と運動学 股関節を構成する骨の特徴		
2	股関節	股関節の構造と機能		
3	股関節	股関節に関わる筋の作用		
4	股関節	股関節の運動学		
5	股関節	股関節に関与する疾患		
6	体幹(脊椎)	脊柱の機能解剖と運動学 脊柱の基本的構造、脊柱の関節構造		
7	体幹(脊椎)	頭頸部の機能解剖と運動学		
8	体幹(脊椎)	胸腰部の機能解剖と運動学		
9	体幹(脊椎)	仙腸関節の機能解剖と運動学		
10	体幹(脊椎)	脊柱に関与する疾患		
11	股関節、体幹(脊椎)	股関節、体幹(脊椎)の復習		
12	膝関節	膝関節の構造と機能		
13	膝関節	膝関節に関与する筋、運動学		
14	膝関節	膝関節の関与する疾患		
15	膝関節	膝関節の復習		

回	テ ー マ	内 容		
16	足関節	足関節の評価実践		
17	膝関節	膝関節の評価実践		
18	股関節	股関節の評価実践		
19	体幹（脊椎）	体幹（脊椎）の評価実践		
20	上肢（肩関節、肘関節、手関節）	上肢の評価実践		
21	歩行分析	歩行分析の基礎		
22	歩行分析	歩行分析のマップ作成方法		
23	歩行分析	歩行分析の実践方法		
24	歩行分析	歩行分析 実践①		
25	歩行分析	歩行分析 実践②		
26	歩行分析	歩行分析 実践③		
27	歩行分析	歩行分析 実践④		
28	歩行分析	歩行分析 実践⑤		
29	歩行分析	復習		
30	まとめ	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
基礎運動学 筋骨格系のキネシオロジー 機能解剖学的触診技術（上肢・下肢） 運動器疾患の機能解剖学に基づく評価と解釈（上肢・下肢）		期末試験	50.0% 50.0%	前期 期末試験 100% 後期 歩行分析レポート、期末試験 各50%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動療法Ⅰ（基礎）		理学療法科/2年	2022/前期	講義（演習も含む） （一部、同時双方型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	山本・山森（実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士が現場で対応することが多い、変形性膝関節症、大腿骨頸部骨折、脳血管障害の実際の症例を踏まえながら、概要を把握し、各障害に対する運動療法の演習を行う 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
知識：疾患概要と障害に対する運動療法を理解する 技術：障害に対する評価、基礎治療ができる 態度：専門技術を学ぼうとする姿勢を身につけることができる				
回	テーマ	内 容		
1	運動療法総論	理学療法士とは 運動療法とは		
2	変形性膝関節症	症例紹介		
3	変形性膝関節症	概要		
4	変形性膝関節症	疼痛に対する運動療法		
5	変形性膝関節症	関節可動域制限に対する運動療法		
6	変形性膝関節症	筋力低下に対する運動療法		
7	変形性膝関節症	感覚障害に対する運動療法		
8	変形性膝関節症	歩行障害に対する運動療法		
9	変形性膝関節症	基本的動作、生活動作障害に対する運動療法		
10	人工膝関節置換術	概要		
11	人工膝関節置換術	リハビリテーションと理学療法		
12	大腿骨頸部骨折	症例紹介		
13	大腿骨頸部骨折	概要		
14	大腿骨頸部骨折	疼痛に対する運動療法		
15	大腿骨頸部骨折	関節可動域制限に対する運動療法		

回	テ ー マ	内 容		
16	大腿骨頸部骨折	筋力低下に対する運動療法		
17	大腿骨頸部骨折	感覚障害に対する運動療法		
18	大腿骨頸部骨折	歩行障害に対する運動療法		
19	大腿骨頸部骨折	基本的動作、生活動作障害に対する運動療法		
20	大腿骨頸部骨折	手術療法概要		
21	大腿骨頸部骨折	手術療法に対する運動療法		
22	脳血管障害	症例紹介		
23	脳血管障害	概要		
24	脳血管障害	運動麻痺に対する運動療法		
25	脳血管障害	感覚障害に対する運動療法		
26	脳血管障害	協調性・バランス障害に対する運動療法		
27	脳血管障害	高次脳機能障害に対する運動療法		
28	脳血管障害	肩手症候群に対する運動療法		
29	脳血管障害	歩行障害に対する運動療法		
30	脳血管障害	基本的動作・生活動作障害に対する運動療法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書 運動療法学 障害別アプローチの理論と 実際 参考図書 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総 論運動器系 第3版		課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%	演習を含むので授 業は実習着もしくは はジャージを着用 すること 実習を想定して授 業内容に関しては

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動療法Ⅱ (応用)		理学療法科/2年	2022/後期	講義 (演習も含む) (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	山本・中森 (実務経験あり)
授業の概要				
呼吸障害、循環障害、代謝障害、嚥下障害、姿勢障害、感覚障害、末梢神経障害、中枢神経障害、協調性障害、バランス障害、発達障害、高次脳機能障害の原因を理解し、それに対する運動療法を学習する 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 呼吸障害、循環障害、代謝障害、嚥下障害、姿勢障害、感覚障害、末梢神経障害、中枢神経障害、協調性障害、バランス障害、発達障害、高次脳機能障害の原因を理解できる 呼吸障害、循環障害、代謝障害、嚥下障害、姿勢障害、感覚障害、末梢神経障害、中枢神経障害、協調性障害、バランス障害、発達障害、高次脳機能障害に対する評価・治療技術を選択し施行できる 				
回	テーマ	内 容		
1	呼吸障害 概論	呼吸器の解剖生理 呼吸障害 分類・評価・治療		
2	呼吸障害に対する運動療法	運動療法各論		
3	循環障害 概論	循環器の解剖生理 循環障害 分類・評価・治療		
4	循環障害に対する運動療法	運動療法各論		
5	代謝障害 概論	代謝の解剖生理 代謝障害 分類・評価・治療		
6	代謝障害に対する運動療法	運動療法各論		
7	嚥下機能障害 概論	嚥下の解剖生理 嚥下機能障害 分類・評価・治療		
8	嚥下障害に対する運動療法	運動療法各論		
9	疼痛 概論	疼痛の解剖生理 疼痛 分類・評価・治療		
10	疼痛に対する運動療法	運動療法各論		
11	感覚障害 概論	感覚器の解剖生理 感覚障害 分類・評価・治療		
12	感覚障害に対する運動療法	運動療法各論		
13	バランス障害 概論	バランス 解剖生理 バランス障害 分類・評価・治療		
14	バランス障害に対する運動療法	運動療法各論		
15	協調性運動障害 概論	協調性運動 解剖生理 協調性運動障害 分類・評価・治療		

回	テ ー マ	内 容		
16	協調性運動障害に対する運動療法	運動療法各論		
17	中枢神経障害 概論	中枢神経 解剖生理 中枢神経障害 分類・評価・治療		
18	中枢神経障害に対する運動療法	運動療法各論		
19	末梢神経障害 概論	末梢神経 解剖生理 末梢神経障害 分類・評価・治療		
20	末梢神経障害に対する運動療法	運動療法各論		
21	姿勢障害 概論	姿勢 解剖生理 姿勢障害 分類・評価・治療		
22	姿勢障害に対する運動療法	運動療法各論		
23	歩行障害 概論	歩行 解剖生理 歩行障害 分類・評価・治療		
24	歩行障害に対する運動療法	運動療法各論		
25	発達障害 概論	発達 解剖生理 発達障害 分類・評価・治療		
26	発達障害に対する運動療法	運動療法各論		
27	高次脳機能障害 概論	高次脳機能障害 高次脳機能障害 分類・評価・治療		
28	高次脳機能障害に対する運動療法	運動療法各論		
29	グループ発表	各障害に対する評価から治療までのデモを実施		
30	グループ発表	各障害に対する評価から治療までのデモを実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書 運動療法学 障害別アプローチの理論と 実際 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総 論運動器系 第3版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版		実習・実技評価 期末試験	60.0% 40.0%	演習が多くなります。実際の現場を想定してそれに相応しい身だしなみで参加することが望ましい。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
義肢学		理学療法科/2年	2022/後期	講義(演習も含む) (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	長谷川(実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、切断と義肢について基礎理論から適合技術、日常生活の指導に至るまで教授する。 【実務経験】製作所勤務				
授業終了時の到達目標				
切断に対応した義肢が選択できる。 義肢を生活上で使用する上での注意点を理解することができる。				
回	テーマ	内容		
1	概要	切断と義肢の歴史		
2	切断術	術式		
3	大腿義足①	大腿義足の名称、ソケット		
4	大腿義足②	膝継手、足継手		
5	大腿義足③	チェックアウト		
6	大腿義足④	適応基準		
7	下腿義足①	下腿義足の名称、ソケット		
8	下腿義足②	足継手		
9	下腿義足③	チェックアウト		
10	下腿義足④	適応基準		
11	股義足①	股義足の名称、ソケット		
12	股義足②	チェックアウト		
13	サイム～足部義足	チェックアウト		
14	術直後義肢装着法	チェックアウト		
15	まとめ	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『義肢装具学』千住秀明 監修 神陵文庫 『下肢切断の理学療法』細田多穂 編著 医歯薬出版 『義肢学』澤村誠志 編 医歯薬出版		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康管理学		理学療法科/2年	2022/前期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	加藤久(実務経験あり)
授業の概要				
ヒトは食物を摂取し体内に必要な物質(栄養)を摂り入れることで生命活動を維持している。食物に含まれる栄養素の特性、栄養素の消化吸収、ライフステージの栄養学を理解した上で傷病者(主に生活習慣病)の栄養管理の基礎知識を習得する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・五大自然栄養素の働き、代謝、栄養素の消化吸収などの基礎栄養学、栄養生理学について理解する。 ・ライフステージ(幼児期、成人期、高齢期)の栄養学の栄養評価の基本的な考え方を理解し、健康維持・増進のための栄養ケアマネジメントを実行できるようにする。 ・生活習慣病の基本的栄養管理を習得する。 				
回	テーマ	内容		
1	栄養とは、栄養生化学 五大自然栄養素(1)	炭水化物(糖質、食物繊維)の生理的特性 たんぱく質(アミノ酸、必須アミノ酸)の生理的特性		
2	五大自然栄養素(2)	脂質(中性脂肪、飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸)の生理的特性		
3	五大自然栄養素(3)	ミネラル、ビタミンの生理的特性		
4	栄養生理学(1)	栄養素の消化・吸収、消化器官		
5	栄養生理学(2)	栄養素の消化・吸収、消化液と消化酵素及び胆汁		
6	栄養生理学(3)	付属消化器官、肝臓、胆嚢のはたらき		
7	栄養生理学(4)	付属消化器官、膵臓のはたらき		
8	栄養素の代謝(1)	糖質の代謝、TCAサイクル		
9	栄養素の代謝(2)	たんぱく質の代謝、糖原性アミノ酸、オルニチン回路(尿素サイクル)		
10	栄養素の代謝(3)	脂質の代謝、 β -酸化		
11	応用栄養学(1)	幼児期、成人期、高齢期の栄養特性		
12	応用栄養学(2)	やせ、肥満、低栄養の栄養アセスメント、栄養管理		
13	臨床栄養(1)	糖尿病の食事療法、食品交換表		
14	臨床栄養(2)	脂質異常症、高血圧症の食事療法		
15	総まとめ	復習、基礎栄養学のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		レポートなどの課題提出 期末試験	20.0% 80.0%	

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
研究方法論Ⅰ（抄読）		理学療法科/2年	2022/前期	講義 （一部、同時双方型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	西潟央（実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士が研究を行うことの意味と目的から始まり、具体的な研究法について学び、研究する前段階である研究計画書の作成までを行う。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士として研究する意義を学ぶことができる ・理学療法士が研究に使用する一般的な測定機器の概要と操作方法を理解できる ・後期の方法論Ⅱで研究するための研究計画書を作成できる 				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 序章	研究方法論で学ぶことを理解する なぜ理学療法士が研究法を学ぶのかを理解する		
2	研究準備1 先行研究を調べる	先行研究の探し方、調べ方を学ぶ		
3	研究準備2 先行研究をまとめる	先行研究の整理の仕方を学ぶ		
4	研究準備3 アウトカムをイメージする	アウトカムを学ぶ		
5	研究企画1 研究デザインを考える	研究デザインを理解する PECO、PICOについて学ぶ		
6	研究企画2 研究デザインを例から考える	観察・調査研究、介入研究を理解する		
7	研究企画3 アウトカムの設定と測定方法を考える	アウトカムの設定と測定方法を理解する		
8	研究企画4 データ処理の方法1			
9	研究企画5 データ処理の方法2			
10	研究企画6 研究グループの構成、臨床的意義・実現性	研究グループをつくる		
11	研究企画7 スパイロメトリーの概要と操作説明	スパイロメトリーの概要と操作方法を理解する		
12	研究企画8 呼気ガス分析装置の概要と操作説明	呼気ガス分析装置の概要と操作方法を理解する		
13	研究企画9 重心動揺計の概要と操作説明	重心動揺計の概要と操作方法を理解する		
14	研究企画10 バイオデックスの概要と操作説明	バイオデックスの概要と操作方法を理解する		
15	研究企画11 研究計画書の作成	研究計画書を作成する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書 PT・OTのための臨床研究 はじめの一步 羊土社 すぐできる！リハビリテーション統計 南江堂		課題・レポート	100.0%	授業ごとにデイリ レポートを翌日の9 時までに作成し提 出すること 判定基準は

回	テ ー マ	内 容	
参考図書			秀100点：授業内容

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
研究方法論Ⅱ (方法)		理学療法科/2年	2022/後期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	西潟央 (実務経験あり)
授業の概要				
医療専門家である理学療法士にとって、対象者の問題や治療課題を明確にして、改善・解決する能力を高めることは最大の責務である。また、理学療法士自身および理学療法学の発展に資するためには、日々の業務の中から問題意識を明確にして、それを検証し、怪傑への努力が求められる。研究方法論を通じて、科学的思考に基づいて真理を追究する姿勢を育成する。そのためには、理学療法士が研究を行うことの意義と目的から始まり、具体的な研究方法について学び、研究する段階である「研究計画書」の作成までを行う。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士として研究する意義を説明できる。 2. 研究論文を読み、抄録用紙に記載し、まとめることができる。 3. 抄読会を企画し、座長や口頭発表をすることができる。 4. 研究デザインの種類を説明でき、倫理規定にそった研究計画書を作成できる。 				
回	テーマ	内容		
1	研究倫理指針とは	研究における倫理の意味づけを教授する。対象者・患者の倫理的配慮、利益相反について概説する。		
2	倫理指針①	実際に学会の倫理指針を確認しながら、条項の意味していることを明確に説明する。		
3	倫理指針②	ラット等の哺乳動物には動物倫理規定が低用されるが、通常の両生類は倫理規定はなが、背名の尊重に配慮する。		
4	抄読会 (抄録用紙)	抄録用紙 (規定用紙を配付) に記載し、発表する形態を提示する。		
5	抄読会 (スライド)	文献抄読後に概要をpowerpointにまとめ、発表する形態を提示する。		
6	抄録用紙の記載①	各自が図書室の雑誌 (研究論文) を読んで抄録用紙に記載する		
7	抄録用紙の記載②	各自が図書室の雑誌 (研究論文) を読んで抄録用紙に記載する。		
8	抄読会 (発表)	抄読した文献の発表を行う。(発表して資料の呈す津: 電子データ)		
9	研究論文の執筆の仕方①	実際の研究内容を紹介し、研究論文の執筆の仕方を説明する。		
10	研究論文の執筆の仕方②	執筆の手順と執筆時の規定を確認する。		
11	研究計画書の作成の仕方	基本的な研究計画書の作成の仕方を教授する。		
12	研究計画書の作成①	各班で研究課題をきめ、研究領域の論文を収集する。		
13	研究計画書の作成②	研究方法の手順を票を作成する。		
14	研究計画書の作成③	「研究計画書」が倫理指針に沿った内容であることを確認し、倫理委員会に申請できる資料を作成する。提出は、紙面と電子データとする		
15	研究ノートの記述 まとめ	臨床介入試験・動物実験・培養細胞実験の経過を第三者にも説明できるように記載することの重要度で提示する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
参考図書 標準理学療法学 理学療法研究法 リハ研究の進め方・まとめ方		課題・レポート	100.0%	課題 (抄録・研究計画書) は授業前を提出期限とし、提出期限を超過したものは受け取ら

回	テ ー マ	内 容	
			ない。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
言語聴覚療法概論		理学療法科/2年	2022/後期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山本、住田(実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、失語症や嚥下障害、構音障害のメカニズムについて学習する。また、リハビリテーションが難渋する高次脳機能障害についての知識と理解を深める。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
失語症や嚥下障害、構音障害のメカニズムが理解できる。 治療方法について理解できる。				
回	テーマ	内容		
1	概論1	言語聴覚療法とは		
2	概論2	高次脳機能障害とは		
3	認知症とは	病態・治療法		
4	CT、MRIのみかた	種々の画像		
5	知的機能検査	検査方法の紹介		
6	失語症、失行症の評価	SLTA、WAB		
7	失認症の評価	視覚失認、身体失認、触覚失認、聴覚失認		
8	認知症の評価	HDS-R、MMSE		
9	記憶の評価	記憶の種類と検査		
10	前頭葉機能の評価	FAB、BADs		
11	嚥下障害について1	嚥下のメカニズム		
12	嚥下障害について2	誤嚥		
13	嚥下障害について3	食事介助		
14	嚥下機能の評価	水のみテスト		
15	まとめ、振り返り	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『聴覚・言語・嚥下の基礎と障害』宮本健作 編著 ブレーン出版 『失語症治療へのアプローチ』武田克彦 著 中外医学社		期末試験	100.0%	

回	テ ー マ	内 容		

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法概論		理学療法科/2年	2022/前期	講義（一部、同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	中川・木下・梶・白瀬（実務経験有）
授業の概要				
作業療法で用いる作業の意味を理解できる。 作業療法の領域を理解できる。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
作業療法を理解できる。				
回	テーマ	内容		
1	身体障害領域の作業療法 1	概論		
2	身体障害領域の作業療法 2	急性期から回復期における作業療法の実際		
3	発達障害領域の作業療法 1			
4	発達障害領域の作業療法 2			
5	精神障害領域の作業療法 1			
6	精神障害領域の作業療法 2			
7	地域における作業療法 1			
8	地域における作業療法 2			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	25.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療計画法		理学療法科/2年	2022/通年	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山本(実務経験有)
授業の概要				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
回	テーマ	内容		
1	症例レポート	レポートの流れと書き方		
2		レポート作成①		
3		レポート作成②		
4	統合と解釈について	統合と解釈について レポート内容の見直し、分析		
5	臨床的思考(ワーク)	ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース例題 ～		
6		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース① ～ グループワークを交えて		
7		グループごとに発表、解説		
8		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース② ～ グループワークを交えて		
9		グループごとに発表、解説		
10		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース③ ～ グループワークを交えて		
11		グループごとに発表、解説		
12		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース④ ～ グループワークを交えて		
13		グループごとに発表、解説		
14		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース⑤ ～ グループワークを交えて		
15		グループごとに発表、解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%	

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
小児科学		理学療法科/2年	2022/前期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	新谷尚久(実務経験あり)
授業の概要				
小児の医療とリハビリテーションをめぐる事柄全般について学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
小児の発達について理解し、正常発達の評価ポイントを理解し、説明できる。 小児で代表的な疾患や臨床症状について理解し、説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	小児科学概論	概論		
2	診断と治療の概要	診断と治療の概要		
3	新生児・未熟児疾患	先天異常と遺伝病		
4	先天異常と遺伝病	種々の疾患と症状		
5	神経・筋・骨系疾患	種々の疾患と症状		
6	循環器疾患	種々の疾患と症状		
7	呼吸器疾患	種々の疾患と症状		
8	感染症、消化器疾患	種々の疾患と症状		
9	内分泌・代謝疾患	種々の疾患と症状		
10	血液疾患	種々の疾患と症状		
11	免疫・アレルギー疾患	種々の疾患と症状		
12	腫瘍性疾患	種々の疾患と症状		
13	習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待	種々の疾患と症状		
14	重症心身障害児	種々の疾患と症状		
15	眼科・耳鼻科的疾患	種々の疾患と症状		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野)「小児科学」第5版		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学Ⅱ（各論）		理学療法科/2年	2022/後期	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	竹中誠（実務経験あり）
授業の概要				
神経疾患による障害に対して理学療法や作業療法を行うためには、これらの疾患に関する十分な知識をもつことと、これら疾患の患者の中で多数を占める高齢者の精神身体面の特徴、ことに加齢に伴う内科疾患などの合併症について十分な知識が必要である。本科目では疾患各論でそれぞれの疾患特性についての基礎知識を習得することを目的とする。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各神経疾患の疾患特性に関する基礎知識を習得する				
回	テーマ	内容		
1	脳血管障害	脳血管障害とは、脳血管障害の症状と分類 脳血管障害の診断と治療		
2	認知症	認知症とは、認知症の鑑別診断、治療可能な認知症		
3	脳腫瘍	脳腫瘍とは、脳腫瘍各論		
4	外傷性脳損傷	外傷性脳損傷の概要、外傷性脳損傷の症状と治療		
5	脊髄疾患	脊髄損傷、脊髄損傷の随伴症状と合併症 脊髄損傷の心理的問題、訓練、日常生活		
6	変性疾患、脱髄疾患	変性疾患、脱髄疾患		
7	錐体外路の変性疾患	錐体外路の変性疾患の定義、錐体外路疾患各論		
8	末梢神経障害	末梢神経障害の分類、末梢神経損傷、末梢性ニューロパチー		
9	てんかん	てんかんとは、てんかんの診断と治療		
10	筋疾患	ミオパチーとは、進行性筋ジストロフィー、ミトコンドリア病、先天性ミオパチー、多発性筋炎、周期性四肢麻痺、 内分泌代謝性筋疾患、筋無力症		
11	感染性疾患	神経系の感染、感染性疾患各論		
12	中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患	中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患		
13	小児神経疾患	小児の診方、脳性麻痺、二分脊椎		
14	神経疾患に多い合併症	廃用症候群と誤用症候群、合併症		
15	神経疾患に多い合併症	排尿障害、性機能障害		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版 改訂第2版 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ		期末試験	100.0%	

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科		理学療法科/2年	2022/通年	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(30時間)	必須	津田亮二(実務経験あり)
授業の概要				
整形外科の病態と治療過程について理解を深めることを目的とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
整形疾患の病態と治療課程について理解する。				
回	テーマ	内容		
1	軟部組織損傷、骨折、脱臼総論	骨と軟骨と関節について		
2	脊椎、脊髄損傷	脊髄損傷		
3	末梢神経損傷	神経断裂		
4	スポーツ障害と外傷	種々の疾患・病態・治療法など		
5	上肢・胸郭の外傷、骨盤・下肢の外傷	種々の疾患・病態・治療法など		
6	頸椎疾患・胸椎・腰痛疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
7	慢性関節疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
8	関節リウマチとその類縁疾患	寛解レベル		
9	肩・肘関節疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
10	手関節・手指の疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
11	股関節疾患	大腿骨骨折中心に		
12	膝関節疾患	変形性膝関節症を中心に		
13	足関節・足趾の疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
14	骨軟部腫瘍、先天異常・系統疾患	癌		
15	まとめ1	整形疾患全般に関わるうえでのリスク		
16	まとめ2	整形疾患全般		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『標準整形外科学 第12版』松野丈夫 著 医学書院 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学第3版』立野勝彦 著 医学書院		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神医学		理学療法科/2年	2022/通年	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	江守(実務経験あり)
授業の概要				
精神医学における主要疾患の症状、診断、治療法について述べ、精神療法の概要についての理解を深める。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 精神医学における主要疾患の症状、診断、治療法について説明することができる。 精神療法の概要について理解することができる。 				
回	テーマ	内容		
1	総論	精神医学とは		
2	精神症状1	精神障害の成因と分類		
3	精神症状2	精神機能の障害と精神症状		
4	精神科診断学1	精神障害の診断と評価		
5	精神科診断学2	脳器質性精神障害		
6	症状性精神障害	精神症状を伴う身体疾患		
7	精神作用物質による精神および行動の障害	薬物依存		
8	精神疾患1	てんかん		
9	精神疾患2	統合失調症		
10	精神疾患3	気分(感情)障害		
11	精神疾患4	神経症性障害		
12	成人のパーソナリティ	行動・性の障害		
13	コンサルテーション	リエゾン精神医学		
14	精神障害の治療とリハビリテーション	精神科リハビリテーション		
15	精神保健医療と福祉、職業リハ	精神保健福祉法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『学生のための精神医学 第3版』太田保之・上野武治編		期末試験	100.0%	

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
装具学		理学療法科/2年	2022/前期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川・小島(実務経験有)
授業の概要				
装具の定義、目的、原理などについて学んだ後、構成する部品、装具の種類、適合判定について学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・装具の分類、機能、目的について述べる事が出来る。 ・疾患や対象者に合った装具を選定できる。 				
回	テーマ	内容		
1	装具学総論	装具の目的、機能、対象疾患、分類。3点固定の原理。装具作成の流れ。		
2	下肢装具の構成部品とチェックアウト	下肢装具の代表的な構成部品の名称と機能特徴 基本的なチェックアウトについて		
3	足継手の制御機構	足継手の種類と機構 足継手による足部関節の制限・制御メカニズム		
4	脳卒中片麻痺の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
5	対麻痺の装具	装具の名称と残存機能レベルに応じた適応について 装具の機能と特徴について		
6	整形外科的装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
7	頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
8	末梢神経障害の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
9	脊椎側彎症の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
10	小児疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
11	関節リウマチの装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
12	靴型装具 車椅子・杖	靴型装具の基本構造と機能特徴とメカニズムについて 車椅子・杖の種類と特徴、各部位の名称について		
13	装具装着の歩行①	片麻痺患者の装具装着しての歩行の動作分析①		
14	装具装着の歩行②	片麻痺患者の装具装着しての歩行の動作分析②		
15	装具装着の動作分析	対麻痺患者の装具装着しての歩行の動作分析①		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「PT/OTビジュアルテキスト 義肢装具学 第1版」高田治実 監修 羊土社		期末試験	100.0%	

回	テ ー マ	内 容		

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
多職種連携		理学療法科/2年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	中(実務経験あり)
授業の概要				
医療および地域リハビリテーションに関わる様々な職種との連携について学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムについて理解する。 ・医療における他職種連携について理解する。 ・介護保険下での多職種連携について理解する。 				
回	テーマ	内 容		
1	地域包括ケアシステムについて			
2	地域ケア会議について			
3	ケアマネージャーについて			
4	MSWについて			
5	看護・介護との連携について考える	看護学生とのグループワーク		
6	看護・介護との連携について考える	看護学生とのグループワーク		
7	看護・介護との連携について考える	グループ発表		
8	看護・介護との連携について考える	グループ発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域理学療法論Ⅱ（各論）		理学療法科/2年	2022/前期	講義（一部、同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	山本（実務経験有）
授業の概要				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
回	テーマ	内容		
1	居住地域の病院、介護医療院、老健、通所リハについて①	見学実習の発表および検討会①（急性期病院）		
2	居住地域の病院、介護医療院、老健、通所リハについて②	見学実習の発表および検討会②（回復期病院）		
3	居住地域の病院、介護医療院、老健、通所リハについて③	見学実習の発表および検討会③（リハ専門病院）		
4	居住地域の病院、介護医療院、老健、通所リハについて④	見学実習の発表および検討会④（介護医療院）		
5	居住地域の病院、介護医療院、老健、通所リハについて⑤	見学実習の発表および検討会⑤（老人保健施設）		
6	居住地域の病院、介護医療院、老健、通所リハについて⑥	見学実習の発表および検討会⑥（通所サービス）		
7	2年次の臨床見学実習について（病院・老健）①			
8	2年次の臨床見学実習について（病院・老健）②			
9	地域理学療法学の総論①			
10	地域理学療法学の総論②			
11	地域支援事業について①			
12	地域支援事業について②			
13	フレイル・サルコペニアについて			
14	介護予防・健康体操について①			
15	介護予防・健康体操について②			

回	テ ー マ	内 容		
16	他職種連携・担当者会議について①			
17	他職種連携・担当者会議について②			
18	前半のまとめ			
19	介護保険制度について①			
20	介護保険制度について②			
21	介護保険制度について③			
22	介護保険制度について④			
23	介護保険サービスについて①			
24	介護保険サービスについて②			
25	介護保険サービスについて③			
26	介護保険サービスについて④			
27	地域包括ケア病棟について①			
28	地域包括ケア病棟について②			
29	地域包括ケア病棟について③			
30	後半のまとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
地域理学療法学 監修 奈良勲		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学Ⅱ（各論）		理学療法科/2年	2022/通年	講義 （一部、同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	柳川 塚田、武田（実務経験あり）
授業の概要				
内科学Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、循環器・呼吸器・消化器・血液・内分泌疾患の各論について理解を深める。療法士として必要な内科学の応用的な知識の習得を目標とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科学に関する基本的知識、各種疾病の病態概念、治療のアウトライン等を習得する。 1. バイタルサインを正しく測定できる。 2. 患者さんの訴えおよび症候から内科疾患を絞り込める。 3. 内科学の全領域を学習し、リハビリテーション治療を受ける患者さんの基礎疾患の病態を理解できる。 4. 感染症を理解して公衆衛生学観点から感染を予防するなど危機管理に努める。 5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの微小な病態変化を迅速に察知し、最適な対応がとれる。				
回	テーマ	内容		
1	消化器疾患1	消化器疾患 消化管の解剖と生理		
2	消化器疾患2	消化管疾患の症候とその病態生理、検査法		
3	消化器疾患3	消化管疾患各論		
4	肝胆膵疾患1	肝胆膵疾患 肝臓、胆道系、膵臓、腹膜の解剖と生理		
5	肝胆膵疾患2	肝胆膵疾患、腹膜疾患の検査・診断法と各論		
6	内分泌疾患1	内分泌疾患 総論、内分泌腺の総論、解剖と生理		
7	内分泌疾患2	内分泌検査法、内分泌疾患各論		
8	腎・泌尿器疾患1	腎・泌尿器疾患 腎臓の解剖と生理		
9	腎・泌尿器疾患2	腎疾患の症候と病態生理、検査法		
10	腎・泌尿器疾患3	腎・泌尿器疾患各論		
11	電解質異常	電解質代謝		
12	アレルギー疾患	免疫系の働き、アレルギー疾患の各論		
13	膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症	膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症の各論		
14	感染症1	感染症総論		
15	感染症2	感染症各論		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版 配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動Ⅱ（応用）		理学療法科/2年	2022/後期	演習 （一部、同時双方型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	水上涼介（実務経験あり）
授業の概要				
<p>正常動作の起居動作についてGWIにて分析します。 そのあと、各代表疾患の特徴を踏まえてADL指導のポイントと同時に起居動作指導方法の検討、介助方法の検討と体系的に学習します。 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・正常動作を知る。 ・正常動作と各種疾患の典型例との違いを理解する。 ・各種疾患の典型動作例を理解し、ADL指導のポイントを理解する。 ・移乗動作の介助方法を習得する。 				
回	テーマ	内容		
1	動作分析総論	姿勢動作の観察ポイント		
2	正常動作分析	寝返り		
3		起き上がり		
4		起居動作（背臥位～端坐位） 立ち上がり、移乗動作		
5	脳卒中片麻痺動作分析	起居動作		
6		立ち上がり、移乗動作		
7	代表的疾患（脳卒中片麻痺患者例）	更衣動作 起居動作方法		
8	代表的疾患（脊髄損傷上位頸髄レベル患者例）	更衣動作 起居動作方法		
9	代表的疾患（脊髄損傷下位頸髄レベル患者例）	更衣動作 起居動作方法		
10	代表的疾患（脊髄損傷胸腰髄レベル患者例）	更衣動作 起居動作方法		
11	代表的疾患（リウマチ、膝OAの患者例）	更衣動作 起居動作方法		
12	代表的疾患（頸部骨折患者例①）	更衣動作、起居動作方法①		
13	代表的疾患（頸部骨折患者例②）	更衣動作、起居動作方法②		
14	大腿切断患者例 高齢者患者例 移乗動作の介助方法	ADL指導のポイント 疾患別移乗動作の介助方法		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「日常生活活動学テキスト」細田多穂 監 南江堂 「症例動作分析」隈元 庸夫 監修 ヒューマンプレス		課題・レポート 確認テスト	10.0% 90.0%	班ごとに正常動作 分析レポート課題 を課すので、授業 で提示する提出期 限を守り、提出す ること。必ず班員 全員で協力して課 題に臨むこと。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法Ⅲ		理学療法科/2年	2022/前期	演習(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	福田(実務経験有)
授業の概要				
理学療法士として使う頻度の高い検査方法なので、検査の意義、検査方法について実技を主として進めていく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの検査の意義・方法ができる。 ・筋の起始停止・支配神経・髄節を理解する。 ・筋力と動作の関連を考察する。 				
回	テーマ	内 容		
1	徒手筋力検査法	筋力測定概論		
2	徒手筋力検査法	肩関節運動の筋肉 筋力測定①		
3	徒手筋力検査法	肩関節運動の筋肉 筋力測定②		
4	徒手筋力検査法	肩関節運動の筋肉 筋力測定③		
5	徒手筋力検査法	肩甲帯運動の筋肉 筋力測定①		
6	徒手筋力検査法	肩甲帯運動の筋肉 筋力測定②		
7	徒手筋力検査法	肘、前腕、手関節運動の筋肉 筋力測定①		
8	徒手筋力検査法	肘、前腕、手関節運動の筋肉 筋力測定②		
9	徒手筋力検査法	上肢練習		
10	徒手筋力検査法	股関節運動の筋肉 筋力測定①		
11	徒手筋力検査法	股関節運動の筋肉 筋力測定②		
12	徒手筋力検査法	股関節運動の筋肉 筋力測定③		
13	徒手筋力検査法	膝、足関節、運動の筋肉 筋力測定①		
14	徒手筋力検査法	膝、足関節、運動の筋肉 筋力測定②		
15	徒手筋力検査法	下肢練習		

回	テ ー マ	内 容		
16	徒手筋力検査法	頭頸部 筋力測定①		
17	徒手筋力検査法	頭頸部 筋力測定②		
18	徒手筋力検査法	頭頸部 筋力測定③		
19	徒手筋力検査法	体幹 筋力測定①		
20	徒手筋力検査法	体幹 筋力測定②		
21	徒手筋力検査法	体幹 筋力測定③		
22	徒手筋力検査法	顔面の筋		
23	徒手筋力検査法	MMT総復習①		
24	徒手筋力検査法	MMT総復習②		
25	筋緊張検査	筋緊張とは？ 筋緊張検査 筋緊張検査の解釈の仕方		
26	協調性検査	協調性検査の意義、協調性検査 バランス検査		
27	反射検査	深部腱反射・表在反射		
28	反射検査	病的反射 反射検査の解釈の仕方		
29	疼痛検査	疼痛について、用語整理		
30	疼痛検査	疼痛評価法 疼痛評価の実践		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「理学療法評価学」松澤 正 著 金原 出版株式会社 「新・徒手筋力検査法」津山 直一 訳 協同医書出版社 打腱器		期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%	・服装含む身なりに 気をつけること。 ・試験日は前もって 連絡する。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法Ⅳ		理学療法科/2年	2022/後期	演習 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	山本・福田(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 片麻痺機能検査や知覚検査の方法について実技を中心に学習する。 各疾患特有の症状に対する検査測定を行い、検査結果について学ぶ。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 片麻痺機能検査を行うことができる。 知覚検査を行うことができる。 運動耐用度の検査やアンダーソン・土肥の基準を理解する。 疾患の特徴を捉えた検査を行うことができる。 				
回	テーマ	内 容		
1	片麻痺機能検査	連合反応と協働運動、brunnstrom testのステージ		
2	片麻痺機能検査	Brunnstrom test (上肢)		
3	片麻痺機能検査	Brunnstrom test (手指)		
4	片麻痺機能検査	Brunnstrom test (下肢)		
5	知覚検査(表在感覚)	触覚、痛覚、温度覚		
6	知覚検査(深部感覚・複合感覚)	関節覚、位置覚、運動覚 2点識別覚、皮膚書字検査、立体覚		
7	運動耐用度の検査	運動負荷試験 ボルグスケール		
8	リスク管理	アンダーソン・土肥の基準		
9	疾患別評価①脳卒中片麻痺			
10				
11				
12				
13	疾患別評価②S C D			
14				
15				

回	テ ー マ	内 容		
16				
17	疾患別評価③パーキンソン病			
18				
19				
20				
21	疾患別評価④頰椎・腰椎椎間板ヘルニア			
22				
23				
24				
25	疾患別評価⑤COPD			
26				
27				
28				
29	疾患別評価⑥心筋梗塞			
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「理学療法評価学」松澤 正 著 金原出版株式会社		実習・実技評価 期末試験	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
福祉住環境コーディネータ論		理学療法科/2年	2022/前期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	1単位(30時間)	必須	梶直美(実務経験有)
授業の概要				
福祉住環境コーディネーター3級試験に合格できる知識を身に着ける 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
福祉住環境コーディネーター3級試験に合格する				
回	テーマ	内 容		
1	総論	検定試験について 学習の進め方		
2	第1章第1節	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
3	第1章第2節第3節	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
4	第2章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
5	第3章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
6	第4章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
7	第5章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
8	過去問	第45回 試験・解答解説		
9	過去問	第43回 試験・解答解説		
10	過去問	第42回 試験・解答解説		
11	過去問	第41回 試験・解答解説		
12	過去問	第40回 試験・解答解説		
13	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
14	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
15	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・福祉住環境コーディネーター3級改訂5版 テキスト ・副教材:短期合格テキスト, 過去問		福祉住環境コーディネーター3級試験合格	100.0%	不合格の場合は、 レポート課題

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理療法Ⅱ		理学療法科/2年	2022/前期	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	高原 美恵（実務経験有）
授業の概要				
物理療法の基礎（電気療法、水治療法を中心に） 物理療法の効果と禁忌 物理療法機器の使用方法 疾患に関連させた物理療法について調べ、発表する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
物理療法の基礎を理解する 物理療法の効果と禁忌を理解する。 物理療法機器の使用方法を理解し、発表できる。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	自己紹介、講義の進め方、物理療法の実際（現状）		
2	電気刺激療法①	電気刺激療法の基本、原理 経皮的神経電気刺激、干渉波 目的、効果、禁忌		
3	電気刺激療法②	神経筋電気刺激 目的、効果、禁忌		
4	電気刺激療法③	機能的電気刺激 目的、効果、禁忌		
5	電気刺激療法④	電気刺激療法機器の使用方法、使用体験		
6	水治療法①	水の特性、作用 水治療法の目的、効果、禁忌		
7	水治療法②	水治療法機器の使用方法、使用体験		
8	復習①	温熱療法		
9	復習②	寒冷療法、牽引療法		
10	復習③	光線療法		
11	グループ課題①	グループ分け、グループ課題取り組み		
12	グループ課題②	グループ課題取り組み		
13	グループ発表①	グループ発表		
14	グループ発表②	グループ発表		
15	まとめ	物理療法の活用方法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
エビデンスから身につける物理療法：羊土社		確認テスト 課題・レポート 実技試験 期末試験	10.0% 20.0% 10.0% 60.0%	※実技試験が実施できない場合は、筆記試験を70.0%とする。

回	テ ー マ	内 容		

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床医療学（栄養・医用画像・薬理学・救命救急）		理学療法科/2年	2022/後期	講義 （一部、同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	中・東田・中島・溝口・渡辺 （実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士・作業療法士の臨床実習や就職後において必要な栄養学の知識、脳や運動器のMRI・CT・レントゲン画像の読影、救急救命について学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・内科疾患におけるリスク管理、栄養指導がわかる。 ・脳画像や運動器画像の正常画像の読影ができる。異常所見により予後を予測する。 ・患者に処方された薬の効用、副作用、リスク管理を理解する。 ・救急時の対応について理解する（AED含む）。 				
回	テーマ	内 容		
1	糖尿病の栄養学			
2	脳血管疾患の栄養学			
3	内科疾患における栄養学			
4	正常画像所見 1	X-P, MRI、CT、エコーの正常画像の読影（運動器）		
5	正常画像所見 2	X-P, MRI、CTの正常画像の読影（脳、内臓）		
6	疾患別画像所見 1	運動器疾患（骨折、筋・靭帯断裂）		
7	正常画像所見 2	脳血管疾患（脳梗塞、脳出血）部位と症状		
8	正常画像所見 3	呼吸・循環器疾患		
9	薬理学 1	リスク管理に必要な薬剤の知識 1		
10	薬理学 2	リスク管理に必要な薬剤の知識 2		
11	薬理学 3	リスク管理に必要な薬剤の知識 3		
12	薬理学 4	リスク管理に必要な薬剤の知識 4		
13	救急救命 1	AEDについて		
14	救急救命 2	一次救命処置		
15	救急救命 2	一次救命後の対応		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
特定の教科書は使用せず		期末試験	100.0%	

回	テ ー マ	内 容		

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床見学実習Ⅱ		理学療法科/2年	2022/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	20回	1単位(40時間)	必須	中・高原・山本・竹中・小島(実務経験有)
授業の概要				
<p>病院にて、見学実習を3日間行い、その前後に学校で2日分の課題を行う。 見学を通して以下のことを学習同期を確認する。②これまで学習したことの意義を理解し、今後の学習意欲の向上を行う。 ③社会人、医療従事者としての責任的行動の遂行を心掛ける。④病院における理学療法部門の位置づけを理解する。⑤理学療法士の業務の内容を把握する。⑥患者や利用者とのとの関わり方についてイメージを持つ。【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①病院のスケジュールに従って行動することができる。学生は施設の規則を遵守し、職員・患者に対する礼儀をわきまえ、見学担当者の指示に従うことができる。②職員・患者に対して社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶・言葉遣い等)がとれる。③学生間や患者との不用意な会話は慎むことができる。また、患者について知り得た情報の守秘義務を守ることができる。</p>				
回	テーマ	内 容		
		令和4年9月12日～9月14日若しくは、12月20日～29日の間に、1週間(40時間)実施。コロナ感染拡大により日程変更有		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題レポート、デイリーノートの提出、出欠、実習態度、等により評定。	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法演習Ⅰ (疾患別基礎)		理学療法科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	杉本 和彦 (実務経験有)
授業の概要				
<p>動作分析 検査測定の実技 代表的疾患について受傷機転～評価項目までの一連で検討していき、記録用紙を作成していく。これをもとにできる限りスムーズになるよう評価手順も考えたうえで、実践していく。 OSCE評価に向けて各種知識・技術を学習し、実践する 【実務経験】 病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>基本動作を構成する要素について、運動学的に説明することができる。 基本動作の分析から、問題点を考察することができる。 問題点を明らかにするための検査測定手技を正しく選択し、実施することができる。 障害像をイメージし、評価を実践できる。 OSCE評価を受けるための知識・技術を獲得することができる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	理学療法評価概論1			
2	理学療法評価概論2			
3	動作分析;寝返り1	寝返り動作の分析①		
4	動作分析;寝返り2	寝返り動作の分析②		
5	動作分析;起き上がり1	起き上がり動作の分析①		
6	動作分析;起き上がり2	起き上がり動作の分析②		
7	寝返り・起き上がりの誘導実技1	寝返り・起き上がりの誘導①		
8	寝返り・起き上がりの誘導実技2	寝返り・起き上がりの誘導②		
9	動作分析;立ち上がり1	立ち上がり動作の分析①		
10	動作分析;立ち上がり2	立ち上がり動作の分析②		
11	姿勢とバランスについて1	姿勢とバランスの評価①		
12	姿勢とバランスについて2	姿勢とバランスの評価②		
13	立ち上がりの誘導実技・バランスの評価1	立ち上がりの誘導		
14	立ち上がりの誘導実技・バランスの評価2	立位バランスの評価		
15	歩行に関する基礎知識のテスト	歩行に関する基礎知識の確認		

回	テ ー マ	内 容		
16	歩行に関する基礎知識の整理	片脚立位動作の分析		
17	歩行分析概論1	歩行分析概論①		
18	歩行分析概論2	歩行分析概論②		
19	動作分析;歩行1	歩行分析演習①		
20	動作分析;歩行2	歩行分析演習②		
21	動作分析;歩行3	歩行分析演習③		
22	トランスファーの実技1	歩行分析演習④		
23	トランスファーの実技2	検査・測定実技復習①		
24	トランスファーの実技3	検査・測定実技復習②		
25	検査・測定の復習(随意性)1	検査・測定実技復習③		
26	検査・測定の復習(随意性)2	検査・測定実技復習④		
27	検査・測定の復習(筋緊張)1	検査・測定実技復習⑤		
28	検査・測定の復習(筋緊張)2	検査・測定実技復習⑥		
29	検査・測定の復習(感覚検査)1	動作分析演習①		
30	検査・測定の復習(感覚検査)2	動作分析演習①		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
特になし		課題・レポート 期末試験	20.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法演習Ⅱ		理学療法科/3年	2022/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60)	必須	竹中、高原、西潟、他(実務経験有)
授業の概要				
<p>実習に必要な基本的知識や技術、疾患別理学療法の考え方、リスク管理、感染管理について、復習も兼ねて講義と実技演習、グループワークなどを行う。</p> <p>【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・トランスファー知識と技術を習得できる ・疾患別理学療法の考え方が習得できる ・面談技法、SOAP、記録の書き方を習得できる ・病態のリスク管理、感染管理の知識を習得できる 				
回	テーマ	内容		
1	総論 1	臨床実習における姿勢、考え方、注意事項		
2	総論 2	臨床実習における姿勢、考え方、注意事項		
3	グループワーク 1	総論で学んだことをグループでディスカッションする		
4	グループワーク 2	総論で学んだことをグループでディスカッションする		
5	リスク管理 1	リスクをどのように考えるか		
6	リスク管理 2	急変時対応 急性期		
7	リスク管理 3	急変時対応 回復期		
8	リスク管理 4	急変時対応 外来・通所		
9	リスク管理 5	急変時対応 在宅		
10	基礎的知識 1	問診と傾聴		
11	基礎的知識 2	SOAPと記録の書き方		
12	基礎的知識 3	評価の正確性とスピード		
13	基礎的知識 4	クリニカルリーズニング		
14	基礎的知識 5	主訴から考えるチャート作成		
15	整形外科疾患の考え方 1	総論		

回	テーマ	内 容		
16	整形外科疾患の考え方 2	各論1 事例検討とリスク管理		
17	整形外科疾患の考え方 3	各論2 事例検討とリスク管理		
18	整形外科疾患の考え方 4	各論3 事例検討とリスク管理		
19	整形外科疾患の考え方 5	各論4 事例検討とリスク管理		
20	整形外科疾患の考え方 6	各論5 事例検討とリスク管理 動作分析		
21	整形外科疾患の考え方 7	まとめ 統合と解釈 確認テスト		
22	脳血管障害の考え方 1	事例検討とリスク管理 1		
23	脳血管障害の考え方 2	事例検討とリスク管理 2		
24	脳血管障害の考え方 3	事例検討とリスク管理 3		
25	脳血管障害の考え方 4	事例検討とリスク管理 4		
26	脳血管障害の考え方 5	事例検討とリスク管理 5 歩行分析、転倒予防		
27	脳血管障害の考え方 6	まとめ 統合と解釈 確認テスト		
28	感染管理 1	感染症の考え方 スタンダードプリコーション		
29	感染管理 2	新型コロナウイルス感染症への対応		
30	感染管理 3	手洗い、手指消毒、清掃方法 確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		課題・レポート 確認テスト	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法管理学Ⅱ（保険制度）		理学療法科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	西潟 央
授業の概要				
授業終了時の到達目標				
回	テーマ	内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート		

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学 I - 1 (整形)		理学療法科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	小島 利彦、高原 美恵
授業の概要				
整形外科疾患の基本を知り、評価、治療法を学ぶ 基本的疾患から評価、治療法を学び、治療計画を立てられるよう課題に取り組む 治療計画を立てたうえで実践できるように実技練習を実施する 症例検討を通じて実践的に考える練習をし、SOAP作成を実施する				
授業終了時の到達目標				
整形外科疾患の基本を知り、評価、治療を知ることができる 基本的疾患から評価、治療法を学んだうえで、治療計画を立てることができる 治療計画を立てたうえで実践できる 症例検討を通じて実践的に考え、SOAP作成を実施できる				
回	テーマ	内 容		
1	整形外科疾患総論	整形外科疾患の問題のとらえ方		
2	画像の基本	MRI、CT、Echoについて		
3	変形性膝関節症	変形性膝関節症とは？ 変形の原因、分類		
4	変形性膝関節症	変形性膝関節症の評価、治療、ADL指導		
5	変形性膝関節症	変形性膝関節症の症例検討、SOAP作成		
6	TKA	変形性膝関節症の手術選択 TKAとは？		
7	TKA	TKAの術後評価、術後治療		
8	TKA	TKAの症例検討、SOAP作成		
9	変形性股関節症	変形性股関節症とは？		
10	変形性股関節症	変形性股関節症の評価、治療、ADL指導		
11	変形性股関節症	変形性股関節症の症例検討、SOAP作成		
12	大腿骨頸部骨折	大腿骨頸部骨折とは？ 大腿骨頸部骨折の保存療法と手術療法		
13	大腿骨頸部骨折	大腿骨頸部骨折の術後評価、術後治療、ADL指導		
14	大腿骨頸部骨折	大腿骨頸部骨折の症例検討、SOAP作成		
15	肩腱板断裂	肩腱板断裂とは？ 肩腱板断裂の保存療法と手術療法		

回	テ ー マ	内 容
16	肩腱板断裂	肩腱板断裂の評価、治療、ADL指導
17	肩腱板断裂	肩腱板断裂の症例検討、SOAP作成
18	肩関節脱臼、SLAP	肩関節脱臼、SLAPとは？ 肩関節脱臼、SLAPの保存療法と手術療法
19	肩関節脱臼、SLAP	肩関節脱臼、SLAPの評価、治療、ADL指導
20	肩関節脱臼、SLAP	肩関節脱臼、SLAPの症例検討、SOAP作成
21	半月板損傷と前十字靭帯損傷	半月板損傷、前十字靭帯損傷とは？ 保存療法と手術療法の選択
22	半月板損傷と前十字靭帯損傷	半月板損傷、前十字靭帯損傷の評価、治療、ADL指導
23	半月板損傷と前十字靭帯損傷	半月板損傷、前十字靭帯損傷の症例検討、SOAP作成
24	足部疾患	足部疾患とは？ 足部疾患の保存療法と手術療法
25	足部疾患	足部疾患の評価、治療、ADL指導
26	足部疾患	足部疾患の症例検討、SOAP作成
27	神経絞扼障害	神経絞扼障害とは？ (手根管症候群、肘部管症候群、胸郭出口症候群)
28	神経絞扼障害	神経絞扼障害の評価、治療、ADL指導
29	神経絞扼障害	神経絞扼障害の症例検討、SOAP作成
30	腰部疾患	腰部疾患（ヘルニア、脊柱管狭窄症など）とは？ 腰部疾患の保存療法と手術療法
31	腰部疾患	腰部疾患の評価、治療、ADL指導
32	腰部疾患	腰部疾患の症例検討、SOAP作成
33	切断	切断の基本
34	切断	切断の評価、治療、ADL指導
35	切断	切断の症例検討、SOAP作成

回	テ ー マ	内 容		
36	脊髄損傷	脊髄損傷の基本		
37	脊髄損傷	脊髄損傷の評価、治療、ADL指導		
38	脊髄損傷	脊髄損傷の症例検討、SOAP作成		
39	急性期のリハビリテーション	手術後のリスク管理（深部静脈血栓症DVT・肺塞栓症PTEなど）		
40	急性期のリハビリテーション	急性期の検査、評価、治療、症例検討、SOAP作成		
41	慢性期のリハビリテーション	慢性期のリスク管理、在宅リハビリテーションの考え方		
42	慢性期のリハビリテーション	慢性期、在宅リハビリテーションの評価、治療、慢性期の症例検討、SOAP作成		
43	国家試験問題	講義範囲の国家試験問題実施、解説		
44	国家試験問題	講義範囲の国家試験問題実施、解説		
45	まとめ	各種まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「リハビリに直結する！運動器画像の見かた」羊土社		期末試験 課題・レポート 実習・実技評価	40.0% 40.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅱ-1(神経)		理学療法科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	竹中 誠

授業の概要

神経筋疾患の病理・病態の理解、基本的な脳卒中リハビリテーションの理論を座学で学び、体験やグループワークを通して脳卒中患者の状態を知り、そこに必要な評価・治療・補助・誘導を適切なリスク管理のもと行えるように実技を通して学んでいきます。

授業終了時の到達目標

神経筋疾患(主に脳卒中)の病理、病態を理解し、必要な評価の立案・実施、臨床推論をもとに基本的な理学療法プログラムを立案・実施することができること

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション リハビリテーションの基本姿勢	
2	運動学習理論	
3	大脳の構造と機能	
4	大脳の構造と機能(神経・血管)	
5	脳血管障害概論(画像)	
6	脳血管障害概論(脳卒中理学療法の理論)	
7	脳血管障害概論(脳卒中理学療法の理論)	
8	脳卒中の病態、急性期治療、リスク管理	服部憲明先生
9	脳卒中の病態、急性期治療、リスク管理	服部憲明先生
10	脳血管障害の評価	
11	脳血管障害の評価	
12	脳血管障害の評価	
13	脳血管障害の評価	
14	パーキンソン病の理学療法	石黒幸治先生
15	脳卒中診療ガイドライン	

回	テ ー マ	内 容
16	脳卒中患者の臨床像（背臥位）	
17	急性期リハビリテーション	石黒幸治先生
18	急性期リハビリテーション	石黒幸治先生
19	回復期リハビリテーション	津田浩史先生
20	回復期リハビリテーション	津田浩史先生
21	背臥位から座位への誘導	
22	座位から立位への誘導	
23	脳卒中理学療法（回復期）	津田浩史先生
24	脳卒中理学療法（回復期）	津田浩史先生
25	脳卒中の装具療法	
26	脳卒中の装具療法	
27	脳卒中の装具療法	
28	立位の評価	
29	立位の評価	
30	立位・歩行の補助・誘導	
31	立位・歩行の補助・誘導	
32	片麻痺患者にみられる合併症とその対策	
33	片麻痺患者にみられる合併症とその対策	
34	認知症	
35	認知症	

回	テ ー マ	内 容		
36	高次脳機能障害に対する理学療法			
37	高次脳機能障害に対する理学療法			
38	脳卒中理学療法（生活期）	仲川仁先生		
39	脳卒中理学療法（生活期）	仲川仁先生		
40	筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症			
41	外傷性脳損傷（TBI）・脳腫瘍			
42	脳卒中理学療法（生活期）	仲川仁先生		
43	脳卒中理学療法（生活期）	仲川仁先生		
44	脊髄小脳変性症・その他			
45	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
神経筋障害理学療法テキスト リハ実践テクニック 脳卒中		課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅲ-1 (小児)		理学療法科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	杉本 和彦 (実務経験有)
授業の概要				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> CPの病態、臨床像を理解する。 CPに対する理学療法の概略を理解する。 筋ジス、二分脊椎、発達障害に関する臨床像と理学療法の概略を理解する。 				
回	テーマ	内容		
1	脳性麻痺に対する評価概論	CPに対する評価概論		
2	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて) 1	CP (両マヒ) の姿勢動作分析		
3	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて) 2	CP (両マヒ) の姿勢動作分析		
4	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて) 3	GMFCS、GMFM、PEDI		
5	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて) 1	CIの治療について①		
6	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて) 2	CIの治療について②		
7	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて) 3	CIの治療について③		
8	重症心身障害児・者に対する理学療法について	姿勢ケアについて		
9	演習課題	CPタイプ別アプローチ		
10	筋ジスについての理学療法について 1	二分脊椎、ダウン症について		
11	筋ジスについての理学療法について 2	筋ジスの臨床像		
12	二分脊椎・ダウン症の理学療法について	筋ジスに対するPT		
13	小児の整形外科疾患の理学療法について	小児の整形外科疾患のPT		
14	その他の小児疾患について	発達障害に対するPT		
15	発達障害について	まとめ、テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・イラストでわかる小児理学療法 イラストでわかる人間発達学		課題・レポート 期末試験	20.0% 80.0%	

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅳ-1 (内科)		理学療法科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	西潟・中島・笹谷(実務経験あり)
授業の概要				
授業終了時の到達目標				
回	テーマ	内容		
1	内部障害概論	定義、疫学		
2	呼吸機能検査	X線所見、肺気量分画、肺音聴診、フローボリューム曲線、呼吸機能評価		
3	呼吸理学療法	胸郭可動域訓練、口すぼめ呼吸、腹式呼吸、リラクゼーション、呼吸筋筋力増強訓練、体位排痰、生活指導		
4	呼吸障害	拘束性換気障害、閉塞性換気障害		
5	人工呼吸器、在宅酸素	気管吸引、C-PAP、HOT		
6	周術期呼吸リハビリテーション	開胸・開腹の術前・後リハビリテーション		
7	心電図	異常心電図		
8	運動負荷強度	運動負荷試験、METs		
9	虚血性心疾患の運動処方	タイプ、強度、時間、頻度、開始基準、効果		
10	循環障害	心筋梗塞、心不全、閉塞性動脈硬化症、リンパ浮腫		
11	代謝障害	糖尿病(DM)、慢性腎不全(CKD)		
12	高齢障害	加齢に伴う生理的変化		
13	症例紹介	急性期の内部障害		
14	症例紹介	回復期の内部障害		
15	症例紹介	生活期の内部障害		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
疾患別リハビリテーションマニュアル		課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%	

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床運動学		理学療法科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高原 美恵(実務経験有)
授業の概要				
<p>バイオメカニクスから日常動作を考える 観察と分析を通じて動作を学習する 運動学の観点から正常歩行と異常歩行の違いについて知る 異常歩行の分類を学ぶ 疾患の特徴を調べ、なぜ異常歩行が起こるのかを調べる</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>日常動作をバイオメカニクスの視点が考えることができる 観察、分析を通じ、動作を考えることができる 運動学の観点から正常な歩行動作と異常な歩行動作の違いを理解できる 異常歩行の分類を知り、模倣することができる 疾患の特徴を知り、なぜ異常歩行が起こるかを調べ、まとめることができる 疾患の特徴を知り、立ち上がり動作、起き上がり動作の異常動作を知ることができる</p>				
回	テーマ	内容		
1	臨床運動学とは?	臨床運動学についての基本 観察・動作分析・運動分析について		
2	動作分析のための評価方法	Functinal Reach test、Time UP and Go test他		
3	臨床における観察の進め方	歩行観察を中心に実施		
4	観察からの分析の進め方	歩行観察を中心に実施		
5	歩行分析①	異常歩行の原因		
6	歩行分析②	異常歩行の復習、異常歩行を模倣		
7	各種動作①	正常な寝返り、起き上がり動作、立ち上がり動作		
8	各種動作②	各種動作のチャート作成		
9	臨床における運動学動作①	説明・練習問題		
10	臨床における運動学動作②	説明・練習問題		
11	臨床における運動学動作③	説明・練習問題		
12	疾患別歩行分析、各種動作①	変形性膝関節症の歩行		
13	疾患別歩行分析、各種動作②	パーキンソン病の歩行		
14	疾患別歩行分析、各種動作③	脳卒中片麻痺患者の歩行		
15	階段歩行	階段歩行の正常と異常		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「動作のメカニズムがよくわかる実践! 動作分析」上杉雅之監修、医歯薬出版(株)		期末試験 課題・レポート	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習 I		理学療法科/3年	2022/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		4単位(180時間)	必須	山本、中、西潟、高原(実務経験有)
授業の概要				
臨床実習として、老人保健施設又は病院(現場)に赴き、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得をめざす。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
実習指導者の直接監視下で理学療法評価プロセスと基本的評価技術を系統的に経験し、理学療法評価一連の過程を理解・取得する。対象者にあった理学療法評価が行え、障害像の把握・問題点の抽出・目標設定が行えることを目標とする。また、医療従事者としての心構えや自覚を高める。				
回	テーマ	内容		
1		2022年10月17日～11月18日内で180時間の実習を実施		
2				
3				
4		(中略)		
5				
90				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 50.0%	現場での実習、提出されたデイリー、ケースノート、学校での発表により総合的に判断する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		理学療法科/3年	2022/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		7単位(315時間)	必須	山本、中、西潟、高原(実務経験有)
授業の概要				
臨床実習として病院に赴き、臨床場面を知り、臨床実習Ⅰで習得した基本的評価技術や理論がどのように実践でしようされているかを学ぶ。 また、治療の知識・技術がどのように行われているのかを臨床現場を通じて知る。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
実習指導者の直接監視下で学内教育や臨床実習Ⅰで習得した理学療法の基本的評価技術や理論を対象者に応用することができ、問題点の抽出・目標設定・治療計画の立案が行えることを目標とする。 また、自己の治療計画を実践することで治療技術を学び、専門職としての知識・技術の習得および自己研磨することを目標とする。				
回	テーマ	内 容		
1		2023年1月10日～3月7日の内315時間の実習		
2				
3				
4		(中略)		
5				
158				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 50.0%	実習、デイリー、 ケースノート、学 校での発表により 総合定期的に成績を 判断する。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
セミナー		理学療法科/4年	2022/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	46回	3単位(90時間)	必須	高原美恵(実務経験有)
授業の概要				
臨床実習の報告発表・症例検討 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
臨床実習の報告発表・症例検討				
回	テーマ	内容		
1	臨床実習の報告発表・症例検討			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10	(中略)			
45				
46				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		発表	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
公衆衛生学		理学療法科/4年	2022/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中山吉宣(実務経験有)
授業の概要				
人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。【実務経験】保健所勤務(獣医師)				
授業終了時の到達目標				
理学療法士・作業療法士として、障害に対するリハビリテーションの担い手となるだけでなく、人が生きる全体像をとらえる視点を持ち、予防の概念に基づき、健康増進へ貢献できる医療人となる。				
回	テーマ	内容		
1	公衆衛生と健康の概念	公衆衛生と健康の概念		
2	疫学	疫学指標の算出、疫学研究と倫理		
3	保健統計	人口動態統計(出生、死産、婚姻、離婚、死亡、死因分類、)		
4	医の倫理と患者の人権	医の倫理と患者の人権		
5	終末期医療と死の概念	終末期医療と死の概念		
6	医療法と医療体制	医療法と医療体制		
7	社会保障と医療経済	社会保障と医療経済		
8	成人保健と健康増進	成人保健の現状と生活習慣病、リスク因子、予防対策		
9	母子保健	親子保健対策、関連法規、		
10	高齢者保健	高齢者と介護保険		
11	障害者福祉、精神保健福祉	精神保健の実際、健康関連行動		
12	感染症対策	感染症の流行状況、主たる感染症、感染症対策、検疫		
13	食品保健と栄養	食生活、食行動、食環境、身体活動と運動		
14	学校保健、産業保健	学校保健、産業保健		
15	環境保健、国際保健	環境衛生(生態系、地球希望の環境、公害、帰校、廃棄物処理、放射線)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
公衆衛生がみえる: MEDIC MEDIA		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会保障論		理学療法科/4年	2022/後期	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	梶直美（実務経験あり）
授業の概要				
本講義では、社会福祉全般についての理解を深め、社会福祉の歴史、理念、社会福祉制度、社会保障、社会福祉援助技術などの概要を述べる。【実務経験：病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
社会保障の目的について理解できる 社会保障制度について理解できる。				
回	テーマ	内容		
1	概論	社会保障とは		
2	社会保障制度	範囲と理念		
3	社会保険	構造		
4	社会扶助	構造		
5	国民年金	実態と近年の動向		
6	厚生年金保険			
7	共済年金			
8	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害福祉論		理学療法科/4年	2022/通年	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	中村（実務経験あり）
授業の概要				
本講義では、障害者福祉全般についての理解を深め、ノーマライゼーションをはじめとする障害者福祉の理念、歴史、また制度などの幅広い知識の習得を図る。【実務経験：病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
「障害」の概念を理解することができる。 自らの障害観を内省し、共生社会について考えることができる。				
回	テーマ	内容		
1	概念	障害者の定義		
2	理念と展開	障害者福祉とは		
3	障害者の生活	生活実態		
4	障害者福祉の歴史			
5	法体系			
6	障害者運動	歴史と意義		
7	障害者と教育			
8	障害者と就労	雇用実態		
9	自立支援法			
10	国際	障害者の国際動向		
11	事例検討			
12	福祉の動向	我が国の福祉の動向		
13	障害者の所得保障	障害者の経済状況		
14	事例検討	自身の障害者観について		
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域理学療法論		理学療法科/4年	2022/通年	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	西潟・小島（実務経験有）
授業の概要				
本講義では、地域リハビリテーションの目標と地域での役割を理解し、地域在住障がい者の生活特性と問題点を整理することで地域理学療法の指導・援助・技術が説明できるようになることを目指す。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
地域社会（在宅）における理学療法の進め方を学習する。地域理学療法と病院・施設などにおける理学療法との違いを理解する。				
回	テーマ	内容		
1	介護保険について			
2	介護認定について			
3	介護認定審査会の模擬審査体験			
4	介護保険サービスについて			
5	入所施設サービスと理学療法			
6	通所系サービスと訪問サービス			
7	介護保険における福祉用具貸与と購入			
8	地域包括ケアシステム			
9	地域連携			
10	地域包括ケアの国家試験問題			
11	「あなたのまわりの地域リハビリテーション」			
12	地域リハビリテーションのリスクマネジメント			
13	地域における介護予防			
14	住宅改修、費用			
15	理学療法士による健康増進活動の展望			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』奈良勲 監修 医学書院. 『地域リハビリテーション学テキスト』細田多穂 監 南江堂.		筆記試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅰ-2(整形)		理学療法科/4年	2022/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	杉本和彦(実務経験有)

授業の概要

本授業は、臨床実習で経験してきた整形疾患に対するケーススタディを通じて、病態、理学療法評価、治療についての基礎知識と実技を復習する

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

整形外科疾患を有する方への理学療法評価から治療までの一連の流れを理解する

回	テーマ	内容
1	骨折	
2	骨折	
3	骨折	
4	高齢者の骨折	
5	高齢者の骨折	
6	高齢者の骨折	
7	腰椎症・腰椎椎間板ヘルニア	
8	腰椎症・腰椎椎間板ヘルニア	
9	腰椎症・腰椎椎間板ヘルニア	
10	変形性股関節症(THA術後療法)	
11	変形性股関節症(THA術後療法)	
12	変形性股関節症(THA術後療法)	
13	変形性膝関節症(TKA術後療法)	
14	変形性膝関節症(TKA術後療法)	
15	変形性膝関節症(TKA術後療法)	

回	テ ー マ	内 容
16	末梢神経損傷（顔面神経麻痺）	
17	末梢神経損傷（顔面神経麻痺）	
18	末梢神経損傷（顔面神経麻痺）	
19	末梢循環障害	
20	末梢循環障害	
21	末梢循環障害	
22	頸肩腕症候群（肩関節周囲炎含む）	
23	頸肩腕症候群（肩関節周囲炎含む）	
24	頸肩腕症候群（肩関節周囲炎含む）	
25	脊髄損傷	
26	脊髄損傷	
27	脊髄損傷	
28	関節リウマチ	
29	関節リウマチ	
30	関節リウマチ	
31	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）	
32	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）	
33	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）	
34	頸椎・腰椎術後療法	
35	頸椎・腰椎術後療法	

回	テ ー マ	内 容		
36	頸椎・腰椎術後療法			
37	スポーツ外傷 ACL・半月板損傷			
38	スポーツ外傷 ACL・半月板損傷			
39	スポーツ外傷 ACL・半月板損傷			
40	熱傷・切断と義肢			
41	熱傷・切断と義肢			
42	熱傷・切断と義肢			
43	まとめ			
44	まとめ			
45	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅱ-2 (神経)		理学療法科/4年	2022/通年	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位 (90時間)	必須	杉本和彦(実務経験有)

授業の概要

本授業では、臨床実習で経験した症例を元にケーススタディを中心に脳血管障害、脊髄損傷を中心とした中枢神経疾患と難病の理学療法について、病態、理学療法評価、治療に関する実際と基礎的知識を復習する。【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

神経疾患の理学療法の評価から治療の流れを理解できる

回	テーマ	内容
1	脳血管障害	片麻痺の理学療法 (基本概念)
2	脳血管障害	片麻痺の理学療法 (基本概念)
3	脳血管障害	片麻痺の理学療法 (基本概念)
4	脳血管障害	理学療法評価
5	脳血管障害	理学療法評価
6	脳血管障害	理学療法評価
7	脳血管障害	急性期の理学療法
8	脳血管障害	急性期の理学療法
9	脳血管障害	急性期の理学療法
10	脳血管障害	回復期の理学療法
11	脳血管障害	回復期の理学療法
12	脳血管障害	回復期の理学療法
13	脳血管障害	維持期の理学療法
14	脳血管障害	維持期の理学療法
15	脳血管障害	維持期の理学療法

回	テ ー マ	内 容
16	脊髄損傷の理学療法 1	
17	脊髄損傷の理学療法 1	
18	脊髄損傷の理学療法 1	
19	脊髄損傷の理学療法 2	
20	脊髄損傷の理学療法 2	
21	脊髄損傷の理学療法 2	
22	脊髄損傷の理学療法 3	
23	脊髄損傷の理学療法 3	
24	脊髄損傷の理学療法 3	
25	Parkinson病の理学療法	
26	Parkinson病の理学療法	
27	Parkinson病の理学療法	
28	運動失調症の理学療法	
29	運動失調症の理学療法	
30	運動失調症の理学療法	
31	難病の理学療法	脊髄小脳変性症
32	難病の理学療法	脊髄小脳変性症
33	難病の理学療法	脊髄小脳変性症
34	難病の理学療法	多発性硬化症
35	難病の理学療法	多発性硬化症

回	テ ー マ	内 容		
36	難病の理学療法	多発性硬化症		
37	難病の理学療法	筋萎縮性側索硬化症		
38	難病の理学療法	筋萎縮性側索硬化症		
39	難病の理学療法	筋萎縮性側索硬化症		
40	頭部外傷			
41	頭部外傷			
42	頭部外傷			
43	まとめ			
44	まとめ			
45	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜、配布		課題	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅲ-2 (小児)		理学療法科/4年	2022/通年	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	杉本和彦(実務経験有)
授業の概要				
本授業では、脳性麻痺児を中心に、発達障害に対する病態、評価、治療についての基本的知識を復習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
小児疾患に対する理学療法評価から治療の流れを理解できる				
回	テーマ	内 容		
1	脳性麻痺児に対する評価・治療			
2	脳性麻痺児に対する評価・治療			
3	脳性麻痺児に対する評価・治療			
4	脳性麻痺児に対する評価・治療			
5	脳性麻痺児に対する評価・治療			
6	脳性麻痺児に対する評価・治療			
7	脳性麻痺児に対する評価・治療			
8	脳性麻痺児に対する評価・治療			
9	脳性麻痺児に対する評価・治療			
10	脳性麻痺児に対する評価・治療			
11	筋ジストロフィーに対する理学療法			
12	筋ジストロフィーに対する理学療法			
13	筋ジストロフィーに対する理学療法			
14	筋ジストロフィーに対する理学療法			
15	筋ジストロフィーに対する理学療法			

回	テ ー マ	内 容		
16	筋ジストロフィーに対する理学療法			
17	二分脊椎に対する理学療法			
18	二分脊椎に対する理学療法			
19	二分脊椎に対する理学療法			
20	二分脊椎に対する理学療法			
21	重症心身障害児に対する理学療法			
22	重症心身障害児に対する理学療法			
23	重症心身障害児に対する理学療法			
24	重症心身障害児に対する理学療法			
25	発達障害に関する理学療法			
26	発達障害に関する理学療法			
27	発達障害に関する理学療法			
28	発達障害に関する理学療法			
29	まとめ			
30	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜、資料配布		課題	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅳ-2 (内科)		理学療法科/4年	2022/通年	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	杉本和彦 (実務経験有)
授業の概要				
本授業では、呼吸・循環・代謝系の理学療法を実施するうえで、各疾患における病態、評価、理学療法、リスク管理について復習し、ケーススタディを通じて学習内容の理解を深めることを目的とする【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科疾患の理学療法の評価から治療の流れを理解できる				
回	テーマ	内容		
1	呼吸器疾患に対する理学療法			
2	呼吸器疾患に対する理学療法			
3	呼吸器疾患に対する理学療法			
4	呼吸器疾患に対する理学療法			
5	呼吸器疾患に対する理学療法			
6	呼吸器疾患に対する理学療法			
7	呼吸器疾患に対する理学療法			
8	呼吸器疾患に対する理学療法			
9	呼吸器疾患に対する理学療法			
10	呼吸器疾患に対する理学療法			
11	循環器疾患に対する理学療法			
12	循環器疾患に対する理学療法			
13	循環器疾患に対する理学療法			
14	循環器疾患に対する理学療法			
15	循環器疾患に対する理学療法			

回	テ ー マ	内 容		
16	循環器疾患に対する理学療法			
17	循環器疾患に対する理学療法			
18	循環器疾患に対する理学療法			
19	循環器疾患に対する理学療法			
20	循環器疾患に対する理学療法			
21	代謝疾患に対する理学療法			
22	代謝疾患に対する理学療法			
23	代謝疾患に対する理学療法			
24	代謝疾患に対する理学療法			
25	代謝疾患に対する理学療法			
26	代謝疾患に対する理学療法			
27	代謝疾患に対する理学療法			
28	代謝疾患に対する理学療法			
29	まとめ			
30	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜、資料配布		課題	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅲ		理学療法科/4年	2022/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	158回	7単位(315時間)	必須	高原・西潟・竹中・他 (実務経験有)
授業の概要				
臨床実習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえ、理学療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価の一連の流れを経験することで、知識と技術を習得することを目指す 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
実習指導者の直接監視下で学内教育や臨床実習Ⅰ・Ⅱで習得した技術や理論を対象者に応用することができ、自己の考えをもって問題点の抽出・目標設定・治療計画の立案が行えることを目標とする。また、実習指導者の指導の下、治療・指導を実施し、その効果判定を行い、治療の変更などが行えることを目標とする。				
回	テーマ	内 容		
1	令和4年5月9日～8月31日のうち315時間			
2				
3				
4				
5				
6				
7		(中略)		
158				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	315時間の実習時間を設ける(7単位)